

群馬県無形文化財緊急調査報告書  
群馬県教育委員会編

沼田市沼須人形芝居

## 序

群馬県には多種多様の無形文化財が存在していますが、近年における著しい社会生活の変化により急速に消滅しようとしています。

そのような状況に対処して、群馬県教育委員会では、昭和五十一年度から特に重要なもので、緊急に保存を講じなければならぬ無形文化財について、緊急調査を実施し、記録を作成し、保存対策の基礎資料を蓄積してきました。

平成四年度は沼田市指定重要民俗文化財の沼田市沼須人形芝居について調査を実施し、報告書を刊行する運びとなりました。本報告書には、沼田市沼須人形芝居の歴史や用具類及び操り技術等を収録いたしました。

本報告書が活用され、より多くの皆様に無形文化財を御理解いただき、さらには地域文化の振興に寄与することができれば幸いです。

終わりになりましたが、本調査に当たり、御指導・御協力をたまわりました調査員、及び快く調査に御協力いただいた沼須人形芝居保存会をはじめ調査対象者の方々、並びに沼田市教育委員会に厚く御礼申し上げます。

平成五年三月

群馬県教育委員会

教育長 唐澤 太市

無形文化財緊急調査(沼田市沼須人

形芝居)実施要項 は

個人情報が含まれるため非公開

目次

総論編はじめに	1
一、農村沼須	1
二、伝統芸能を伝える沼須	2
沼須人形芝居のあゆみ	5
一、由来	5
二、もう一つの由来	5
三、最盛期の明治から衰退の大正へ	6
四、復活した昭和二十年代	7
五、文化財指定後の人形芝居	12
六、あけぼの座その後のあゆみ	14
七、歴代座長	26
現在の沼須人形芝居	30
一、座員	30
二、上演目	30
三、人形芝居保存会員	31
四、人形芝居保存会則	32

人形芝居の稽古

一、平成三年あけぼの一座の動き

沼須人形芝居の特徴

一、人形の頭

二、人形の手

三、舞 台

四、人形芝居として

図 版 編 「人形諸用品」

一、頭（かしら）

二、操り用品と身体

三、綺羅（衣裳）

四、小道具

五、大道具

六、掛紙（背景）

七、幕

八、綺羅一覧表（三での掲載分は除く）

はじめに

一、農村沼須

群馬の北部、四方を山に囲まれた山間の都市沼田は、東入り方面は日光・尾瀬へと、西入りは三国峠へ、また谷川岳・水上への観光地の玄関口でもある。沼田市沼須町は沼田盆地の南、片品川と沼田台地の間に位置し、後ろに山をめぐらすので冬から春にかけては沼田台地上とは気温がちがう。この温暖な気候を利用しての野菜づくりに力を入れ、沼田市街地に近いことから昔からリヤカーを引いての野菜の小売りが盛んであった。

沼須という地名は、昔沼須一帯が湿地・わき水・中洲・沼地などが多く一面に葦が生茂っていた河原なので沼須 沼果などと書かれていた。縄文式土器や打製石斧などが出土することから古くから人が住んでおり、位置が沼田城の南、片品川のはとりにあるので戦国時代に北条氏と対戦するようになると、沼須河原が片品川をはさみ、たびたび戦場となった。江戸時代に入り沼田も真田氏によって安定した時代になると、南方への通路として、表玄関となり宿割が始まった。東西に広がっていた民家を中央、南北に集め、十二間、九十間の余裕ある宿割であった。道巾は広く、中央に堰が流れ、沼田参勤交代の道となった。今でも中央に真すぐに伸びる往還が当時のおもかけを残し、堰は東側に寄せられはしたが、残蹟は見られる。村の南端から西にかけて横町と呼ぶ船頭宿があり、天神瀧から渡し舟で川向こうの森下に出た。そのため旅人の往来もはげしく、三道楽（飲む・打つ・買う）の宿であったという。

明治となり戸鹿野橋が沼田の玄関口となると沼須は交通の中心からはずれ、久呂保村から沼



沼須全景

田への連絡として沼須村で架橋していたが、昭和十二年の大水で流出したまま南方との交通は遮断されて、行き詰まりの集落となつてしまった。水との戦いが何度となくくり返えされ横町も河原となつてしまった。明治の戸長時代には戸鹿野・沼須・新町・上沼須・下久屋・横塚の六ヶ村連合役場が沼須村武井和吉宅で始まり、利南村となるまでは中心の村であった。明治四十四年に沼須の田は耕地整理がなされ整然たる水田に生まれ変わり、新緑とともに田や畑の農作業が始まり、田植え・野菜の植付け・養蚕と緑美しい自然の中で人々の生活が営まれてきた。明治二十二年から昭和二十九年まで利南村沼須であつたが昭和二十九年沼田市沼須町となり現在に至る。昔より沼須の五姓として、金井・阿左見・永井・茂木・石井が草分けの家柄とされ、後になつて小林・角田両家に移り住んで来た。

## 二、伝統芸能を伝える沼須

沼須は江戸時代に沼田から片品川を渡り森下を通り、赤城山北麓から前橋方面へ通ずる沼田街道筋にあり、沼田城主をはじめ多くの旅人が往来し物資とともに、この沼須村を通じて多くの文化が入つて来た。

記録では元和二（一六一六）年真田信幸が大阪の陣のあと徳川方について帰陣した時に沼須新田を開いた祝いとして歌舞・蜘蛛舞などを呼び寄せて見物している。天和二（一六八二）年に真田氏が改易され、代官時代に「操りかぶき、忍び見物之品々停止の事」とあり、すでに人形操りや芝居を楽しんでたことがわかる。その後、天明五（一七八五）年砥石大明神祭りに地芝居を行ない生品村（現在川場村）から装束を借り五両二分払っている。文久二（一八六二）年十月二十九日と十一月一日の二日間砥石神社境内で踊興行が行なわれて次のようであつた。

### 幕敷二十三 所作事二幕

師匠は巳千之助 塚原村（月夜野町） 森之助 吾妻郡 鳴戸太夫 森下村（昭和村）

総掛り 金一二五両二分と一七三貫九七二文

収入

定日樽銭 金三十八両一分一朱と六十七貫文

稽古見舞 金四両三分三朱と三二四文 外に酒三斗六升

払物 金六両三分三朱と十五貫三四八文

計 金五十兩三朱と八二貫六七二文

差引不足 金七十五兩一分一朱と九十一貫三〇〇文

この不足を関係者で埋め合わせることに、

三十人割 一人金二兩二分二朱

四人割当 一人金一兩三分

一人割当 一人金一兩

五人割当 一人金一分

町宿人用による補助は、金二十三兩一分と五四五文

町宿は、その後一人金二分と一貫三〇文 但し三十六人割

残金一貫五〇九文

こうした莫大な金で無茶な芝居を興行したのである。

明治五年になり政府及び県が農業を勧めた褒美として、公認で勤農祭の芝居が沼須砥石神社境内で二月二十五日から二十八日まで昼夜を通して行われた。

惣掛り 金六〇二兩三分二朱と四三一文

収入 金一五六兩一朱と一文

定日樽 金八十七兩二朱と六六九文

稽古樽 金七兩二分一朱と三三〇文

払物 金六十一兩一分と二五二文

差引不足 金四四六兩三分一朱と四三〇文

不足は一人前八兩と一貫百文宛 取立八兩 三十兩再割付

幕数四十六幕 所作事三幕

師匠は伊八（役者名は中村歌女之助） 團原村（利根村）

所作師匠 宇太之助

歌届女



太夫は左馬太夫 ナニワ太夫

で合計六十四名が出演している。

また、三味線の名手四代目鶴沢元造（本名倉沢ひやく）の墓が銀杏の木にあり次のように記されている。

南面 大正二年十二月三日 行年五十二歳 俗名倉沢ひやく

東面 四代目鶴沢元造之墓

北面 鶴照院澤玉龍元大姉

南面の台石に弟子 鶴沢元三郎・鶴沢元茂・鶴沢元玉・鶴沢元吉、北面に沼須世話人一同とあり、明治時代において沼須の地でも義太夫が盛んに語られブームであった。

砥石神社境内にも舞殿が明治の頃まであったと伝えられている。

このような街道筋に入り育った芸能は、その時どきの時代の流れに影響されながら沼須の地に育ち、庶民生活の楽しみの一つとして継げつがれて来た。そして、それは沼須人形芝居も例外ではなかった。



三味線弾き 鶴沢元造の墓

## 沼須人形芝居のあゆみ

### 一、由 来

安政年間（一八五四～一八五九）に阿波の国の旅芸人がこの地方を巡業していた時に、座元の妻が病氣になり、旅金に困りはてて利南村新橋（現沼田市新町）の棒丸（星野家、代々名主をつとめ半兵衛を名のり、沼田城の御用達でもあり、質屋・しょうゆ屋を商った旧家で屋号が棒丸であった）に座敷組立式舞台・人形頭三十・小道具・衣装など一式を質入れして金策を作ったという。この話を当時沼須で壁人形を操り、人形芝居に興味を持っていた村人金井仁左衛門が聞き、質入れされていた人形芝居一切を十両の金で買取った。そこへ桃井村山子田（現権東村）に、兄弟三人で一座を組織していた人形芝居の森田頼蔵兄弟が沼須の親戚を頼って来ていたので、さっそく村の若者十名ばかりが集まり技術練習が始まり、やってみると思ったよりおもしろく覚えられ人形芝居上演の気運が盛り上がり、さっそくた。前記金井仁左衛門が座長となり、若者は金井佐勝・金井和三郎・須田重之助・角田平五郎・松井千太郎等が加わり、角田森蔵が土岐太夫という芸名で義太夫を担当し、沼須人形芝居の旗上げ公演が始まったのである。

やがて、頼蔵に連れられ遠くは越後・信州へと興行して歩き、近くでは沼田藩士の屋敷・利根沼田の村々へ招かれて行った。

### 二、もう一つの由来

昭和五十三年の調査で、新しくもう一つの説が明らかになった。

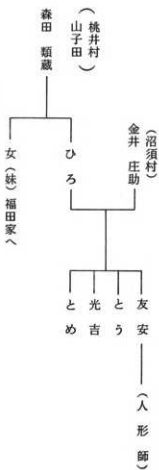
森田頼蔵は山子田に住んでいたが、二人娘のうち長女ひろが沼須の金井庄助の所へ嫁に来たため、自分も娘の嫁入り先の沼須を時々訪ずれていた。頼蔵は山子田にいる頃より人形芝居をやっており、三組持っていた芝居道



人形の頭

具のうち二組を売り、残りの一組を持って沼須へ来、人形芝居を村人に広め、金井仁左衛門などに教えるうちに「沼須人形」という呼ばれ方になって来たという。類蔵は娘ひろの家に長い間滞在する訳にもいかないので、片品川の橋の近くに住み、橋番をしていた。「橋番のおじい」とか「橋場のおじい」などの名で村人に呼ばれ、菓子・モチなどを売っていた。

人形芝居には金をかけ当時としてはかなりの道楽もので、彼のまわす人形は「生きてる人が踊るのと同じようだ」・「橋番のおじいに習えば上手になる」などのうわさが流れるようになった。また、孫の金井友安には「人形をまわす時、ひじを身体から離すから駄目なのだ」と注意をしていた。



森田類蔵の戒名

森隆院類翁道悟居士

大正二年八月没

### 三、最盛期の明治から衰退の大正へ

人形芝居は明治中期が最盛であった。大正に入り師匠格の森田類蔵が同二年八月に没、続いて土岐太夫と角田森蔵が大正五年七十歳で没。指導的立場の二人が相ついで亡くなったた



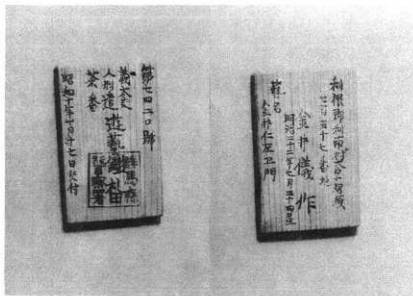
本 太 夫 義

め一座を再編成し、金井佐勝が座長となり指導する。佐勝の子長三をはじめとし、金井儀八・儀作兄弟も加わり、儀八は稽古を重ねるうちに技術が上達し弟の儀作も同じようにうまくいった。金井金太・金井喜市などの参加も求めて先人の技術を継承して沼須人形の名声を保ちたので、村人はこれらのことから人形芝居を「金井一座」・「金井座」と呼んでいた。

大正八年一月、一座の中心であった金井長三が薄根村石原家に婿に入るということになり、人形芝居も危機となったが、角田与四平が「人形芝居を滅ぼしてはならない」と金井友安・金井高三（義太夫を語る）が一座に加わり、警察も本気でやれば興行免許の鑑札を出すということで稽古に助けみ、これに武井和重郎・山田平三郎が加わり技術伝承に努め一時盛んになるが、相つぐ古老の死と時代の移り変わりにいつしか衰退の道を歩み始めた。大正末には関係者一同話し合いの上、人形芝居一式を青年会に委託し青年による今後の発展を待つことにしたが、引き受けた青年たちにしても忙しい農作業の間に容易に動かすこともできなくなり、いつしか長い間中断され上演されることはなかった。

この時代は、森田頼藏の故郷である山子田へも毎年秋になると三日間泊まり込みで出かけ出演料が手に入ったが、持って行った金まで使いはたしてしまふという状況であった。人形芝居は遠くは勢多へ一ヶ月の興行を、近くの川場・追貝・沼田などの利根郡内では一日か二日であり、上演は夜であるので昼間は客集めに二、三人で鉦・鼓をたたきながら「沼須人形大歌舞伎御当地初めてのおめ通り、にぎにぎしく御米場の御願ひ奉り申し上げます」と客寄せに歩いた。

#### 四、復活した昭和二十年代



鑑札

鑑札

昭和七年に人形芝居を上演、

翌年八年十月十三、十四日に沼田中町の須賀神社で人形芝居が上演され石原長三・角田与四平が出演している。綺羅や道具類を入れる「つづら」を昭和十年十月一日に制作し、その側面に「丸に四ツ目」の紋、この紋は沼須人形芝居が始まってからのものである。昭和十年代道具は角田与四平宅の蔵に保管しておいた。その後、まわす人もなく、国からの「芸的なことはやめ農業に精を出すように」とのことや戦争やらで長い間中断、時に青年団が虫干しを神社境内でしていた。  
昭和二十七年十月二日に萩原進氏の調査で人形芝居が復活、金井儀八の弟儀作を座長とした。この頃の上演のようすは



昭和27年当時の人形まわし



人形の頭や衣裳をしまっておくつづら

上演項目

- 一、三番叟 二、太功記十段目 三、傾城阿波鳴門 四、堀川夜討弁慶上使の段 五、日高川入相花王安珍清姫渡場の段  
六、朝顔日記宿屋より大井川渡場まで 七、三国妖婦伝道春館の段 八、青山将監鉄山血屋敷の場 九、廿四孝勝頼使者の段  
十、鎌倉三代記三浦別の段 十一、一の谷織軍記組討の段 十二、神靈矢口渡渡場の段

連中

役割

芸

名

本

名

役割

芸

名

本

名

かつら係

石井 愛子

石井 あい

舞台係

金井 広松

金井 広光

阿左見 曾野路

阿左見 そのじ

石井 実之助

石井 実

下座  
人形師

角田 与之助  
金井 雪之助  
星野 市之助  
阿左見 喜久次  
金井 三之助  
阿左見 正之助  
石原 長之助  
鶴沢 斧太夫

角田 与四平  
金井 節朗  
星野 一信  
阿左見 きくじ  
金井 三三  
阿左見 正雄  
石原 長三  
小林 斧一郎

掛 師  
小道具係  
綺 羅 師  
頭 取  
副 頭 取  
座 長  
副 座 長  
世 話 係

金井 高三郎  
金井 竹志  
金子 阿喜子  
阿左見 増衛門  
竹井 貞衛門  
金井 仁左衛門  
小林 準左衛門

金井 高三  
金井 猛  
金子 あき  
阿左見 増次郎  
武井 貞雄  
金井 儀作  
小林 準  
金井 宇太夫

衣裳・道具類

一、使用楽器

太鼓 尺八  
太鼓 尺八  
着物八十枚 帯十五枚 羽織十枚 袴八着 長袴二着 鍍一着 上下五着

二、衣 裳

刀十本 槍一本 薙刀一本 外十数種

三、小道具

三十頭

四、人形類

十二組

五、人形指手

水幕二枚 引幕一枚 蹴込幕一枚 袖幕二枚 裏幕一枚 掛紙十枚

六、幕

上演日と場所 四月三日・十月一日 沼須町公民館

保存会会則

第一条 本会は沼須人形芝居保存会と称す

第二条 本会の事務所は沼田市沼須町公民館に置く

第三条 本会は芸術上歴史上価値の高い沼須人形芝居の保存発展を目的とする

第四条 本会は右の目的を達成するため次の事業を行なう。



綺 羅

一 春季は神社祭典、敬老会等の際人形芝居を上演し一般に公開する

二 秋季は人形着物等の虫干を行ない、沼田市産業祭等の際も公開する

第五条 本会の経費は寄附金を以てこれに当てる

第六条 本会の会員はこの趣旨に賛同するものを以て会員とする

第七条 本会に顧問並びに左の役員を置く

顧問 若干名 会長一名 副会長一名 会計一名 幹事一名

食品 宇平 食品 資一 星野 節郎 吉田定次郎 会長 小林 美鳥 副会長 武井 正市 会計 金井宇太夫

幹事 金井 三次

参与会員 須田 広次 阿左見増次郎 武井 貞雄 金井 猛 角田 薫輝 金井 鶴衛 金井 伊平 星野 常市 星野 恒吉

小林 広也 角田 とよ 角田 とく 金井 高三 角田与四平 阿左見正雄 石井 あい 金子 あき 阿左見そのじ

石井 実 金井 広光 小林 準 星野 一信 山田 弁吉

このようにして人形芝居は復活して行った。以下文化財指定までは保存されている会計簿等の記録による。

昭和二十八年三月十五日 三味線は糸井の鶴沢元助と友竜 石原長三出演

四月二日 三味線は鶴沢元助

五月十七日 沼田の長寿院で上演

昭和二十九年五月二十二日 舞台材料費として大工に手間賃・金具一式代六〇九〇円支払う

十月一日 三味線宿礼二日間分金を支払う

十月六日 沼田市産業祭に上演、友竜に三日分の代金支払う

昭和二十九年は沼田が町から市になった年で、それを記念して旧池田・川田・薄根・利南村・沼田の学校や公民館で上演した。この上演のために金井儀作が中心になり横二間半の舞台を作り、現在も使用している。座員は二十名いたが出かけるのは十三、四人で座長はどんな役でもできた。この頃は専門的にやっていた人が多かったので頼まれれば、それほど稽古しなくても上演でき、舞台も二、三時間です上がった。稽古場は角田嘉一郎蚕室であり、道具類は座長である金井儀作宅に保管した。

昭和三十年 一月十八日

人形の手を綿・布・糸で新調する。

四月四日

友竜に村公民館での上演に二日分金を支払う

九月三十日

沼田産業祭出演一席分 六〇〇〇円収入 綿・布等人形の  
着物として購入

十月一日

沼田産業祭出演三座 一八〇〇〇円収入

十月十五日

敬老会上演 五座 三味線 友竜

十一月

沼田市利南中学校文化祭に出演

昭和三十一年三月六日

沼田市公民館で上演

四月八日

機名神社（沼田市機名町）祭典で上演

昭和三十三年十一月二十五日

沼田市農林部演芸会に上演す 三味線 友竜

昭和三十三年十一月二十二日

沼田市新劇場での農林祭に出演

昭和三十六年十一月

沼田市文化祭に人形を展示

昭和三十七年十一月十八日

沼田市新町で太功記十段目、朝顔日記を上演 小太鼓張替

昭和三十八年四月三日

沼須での上演

昭和四十年 四月三日

沼須での上演 三味線 鬼美代

四月十九日

沼田市教育記念館で上演 三味線 鬼美代

昭和四十二年十一月二十日

水上町藤原の学校体育館新築記念で上演 三味線 鬼美代

昭和四十三年十一月二十四日

明治百年記念で沼田市公民館において人形を展示

昭和四十四年四月二十日

老人倶楽部保存会と共催で沼須公民館で上演 三味線 鬼美代

十月四日

利南地区敬老会で上演 三味線 鬼美代

昭和四十七年十一月

利南中学校文化祭で上演

昭和四十八年十一月

沼田市公民館祭に人形展示



友 竜



## 五、文化財指定後の人形芝居

昭和四十九年沼田市が市指定文化財候補の調査をはじめると人形芝居と諸道具が民俗資料として脚光をあげ、これを受けて五十年の一月十九日に郷土芸能沼須人形芝居保存会ができた。これが役員となった。

会長 阿左見正勝 副会長 金井 広光 庶務 阿左見友吉 会計 角田嘉一郎  
 理事 石合 ヒサ 金井 節朗 山田 弁吉 金井 光司 武井 光夫 金井 幸 田辺 みい 金井美佐保  
 金井 正平 星野 一信

演芸部（あけぼの座） 座長 石井 実

「あけぼの座」の名は町の八木節の団体が「あけぼの組」、生花の団体が「あけぼの会」のように町の団体には「あけぼの」を使っていることから人形芝居も名をつけ、町ぐるみの保存会を結成、「金井一座」の生存者の一人金井儀作と義太夫仲間の協力で十名近くを集め、なんとか技術習得の段階まで来た。稽古場は人形芝居の役員を務め、神社に近いし、蚕室が広い角田嘉一郎宅で、太夫元は金井字太夫、舞台係は金井広光と石井実、ここまでは良かったが人形のまわし方・義太夫台本が読めない、そこで義太夫をテープに録音して何回も聞き台本を解説し、なんとか踊れるところまで来た。武井志津・角田徳子の両名が日本舞踊を習ったことがあるので二人に支度をしてもらったが舞踊と人形とは勝手がちが大変であった。これ以後、人形道具一式は磁石神社の経蔵に保管する。

昭和五十年四月三日 上演 沼須

冬からの稽古の結果、人形芝居上演日を磁石神社春の祭典四月三日に決定し、なんともこれまでは間に合わせるべく猛稽古が始まった。三日は午前中は一切昼（若者の行事として経箱をかつき各戸の台所から座敷を通り抜けることよって厄除けといわれている）、午後には人形芝居上演が角田嘉一郎宅蚕室で盛大に行なわれた。この日の上演と配役



人形芝居が上演された角田嘉一郎宅

は

。三番叟 山田 弁吉

。傾城阿波鳴門巡礼唄の段

太夫・三味線 鶴沢 元助 お弓 武井 志津 おつる 角田 徳子

。朝顔日記宿屋の段

太夫 金井字太夫 三味線 鶴沢 元助 深雪 角田 徳子 駒沢次郎左衛門 角田 充 岩代多喜太

武井 光夫 徳右衛門 星野 一信 若侍 石合 ヒサ 川越人夫・女中大勢

。絵本太功記十段目尼ヶ崎の段

太夫 金井字太夫 古藤喜一郎 三味線 鶴沢 元助 武智 山田 弁吉 操 武井 志津 皐月 角田 徳子

真柴久吉 星野 恒吉 十次郎 角田 充 初菊 金井美佐保

。日高川入相花王渡し場の段

太夫 阿左見定夫 三味線 鶴沢 元助 清姫 金井美佐保

舟長 田辺 みい 大蛇 金井 広光

この日の舞台係 金井 広光 石井 実 阿左見友吉 田辺 みい その他全員

で演じられた。

保存会の監査に星野恒吉・阿左見晃(区長)と顧問に大竹尚夫・堀江文夫・武井新平・

小林美島・金井儀作・金井字太夫が加えられた。

人形芝居上演についての役割(上演部は)

代表 阿左見正勝(保存会々長)

上演部長 金井 広光(保存会副会長)

座長 石井 実

副座長 山田 弁吉

太夫元 金井字太夫



昭和50年の演目と役割

舞台・小道具・下座係 金井 正平 角田 充 武井 光夫  
かつら・綺羅 田辺 みい 金井美佐保

照明係 武井 政雄

世話係 星野 恒吉 角田嘉一郎 阿左見友吉

人形師 阿左見 晃 星野 一信 角田 徳子 石合 ヒサ 金井 光司 金井 幸 金井美佐保

田辺 みい 阿左見そ乃志 武井 志津

諸道具

楽器 太鼓 鉦太鼓 笛

衣裳 着物八十枚 帯十五枚 羽織十枚 袴八着 長袴二着 禮一着 袴五着

小道具 刀十本 薙一本 外數十類

人形頭 二十七頭 (三十三あった)

人形指手 十二組

幕 水幕二枚 引幕一枚 けこみ幕一枚 袖幕一枚 裏幕一枚 掛紙十枚

組立舞台一式

このように復活した人形芝居に対して昭和五十一年三月三十一日付で沼田市指定の文化財となった。

種別 民俗文化財 名称 沼須人形芝居の人形頭及び付属品一式

所在地 沼田市沼須町 管理者 沼須人形芝居保存会

同時に一切経も文化財指定となり、これ以後沼須人形芝居は四月三日春の祭典に上演することになった。この頃より衣裳の背を割って長くしたので正面よりの見ばえがよくなった。それ以前は背が割ってなかったので、手を差込むと衣裳が腕にかかり人形の前が肌けて見えたり、肘が上がると宙を飛んでいるように見えた。また衣裳を何枚も着ると重くなるので襦袢は着せないでまわすようになった。

#### 六、あけぼの座その後のあゆみ

昭和五十一年四月三日 上演 沼須

。三番叟 山田 弁吉

。沼田城物語 三波春夫のレコードにて回す

昌幸 武井 光夫 信幸 阿左見 晃 幸村 角田 充 小松姫 金井美佐保 清海入道 金井 光司

。傾城阿波鳴門巡礼唄の段

太夫・三味線 鶴沢 元助 お弓 武井 志津 おつる 角田 徳子

。伽羅先代萩御殿の段

太夫 金井宇太夫 三味線 鶴沢 元助 政岡 武井 志津 八汐 角田 徳子 栄御前 武井 光夫

沖之井 星野 恒吉 千松 阿左見 晃 鶴千代 金井 光司

。朝顔日記宿屋の段

太夫 金井宇太夫 三味線 鶴沢 元助 深雪 角田 徳子 駒沢 金井 光司 岩代 武井 光夫

若侍 阿左見 晃 徳右衛門 星野 一信 人夫・女中 その他大勢

十一月二十三日上演 利根沼田文化会館

利根沼田伝承古典芸能祭において絵本太功記十段目尼ヶ崎の段

昭和五十二年四月三日 上演 沼須

。三番叟 星野 一信

。傾城阿波鳴門巡礼唄の段

太夫・三味線 鶴沢 元助 お弓 武井 志津 おつる 角田 徳子

。太功記尼ヶ崎の段

太夫 金井宇太夫 古藤喜一郎 三味線 鶴沢 鬼七 武智 星野 一信 操 武井 志津 牟月 角田 徳子

。奥州安達原袖萩祭文の段

久吉 星野 恒吉 十次郎 角田 充 初菊 金井美佐保 袖萩 武井 志津 お君 角田 徳子 謙杖 阿左見 晃

。奥州安達原袖萩祭文の段

太夫 阿左見定夫 三味線 鶴沢 元助 宗任 角田 充 八幡 星野 恒吉 捕手・女中 その他大勢

十一月十九日 上演 利根沼田文化会館

利根沼田伝承古典芸能祭での伽羅先代萩忠義の段

昭和五十三年四月三日 上演 沼須

。三番叟 星野 一信

。伽羅先代萩忠義の段

太夫 金井宇太夫

三味線 鶴沢 元助

政岡 武井 志津

八汐 角田 徳子

栄御前 武井 光夫

沖之井 星野 恒吉

千代 阿左見 晃

鶴喜代 金井 光司

。朝顔日記宿屋の段

太夫 金井宇太夫

三味線 鶴沢 元助

深雪 角田 徳子

駒沢 金井 光司

岩代 武井 光夫

若侍 阿左見 晃

徳右衛門 星野 一信

その他大勢

。奥州安達原袖萩祭文の段

太夫 阿左見定夫

三味線 鶴沢 元助

袖萩 武井 志津

お君 角田 徳子

謙杖 阿左見 晃

浜夕 金井美佐保

貞任 星野 一信

宗任 角田 充

八幡 星野 恒吉

捕手・女中

その他大勢

十一月二十二日 上演 利根沼田文化会館

利根沼田伝承古典芸能祭において朝顔日記宿屋の段

十一月二十三日 上演 猿ヶ京老人ホーム慰問

絵本太功記十段目尼ヶ崎の段 朝顔日記宿屋の段

昭和五十四年から沼須での上演は角田嘉一郎宅から沼須農事研修所へ移る。

昭和五十四年四月三日 上演 沼須

。三番叟 金井 光司 阿左見 晃

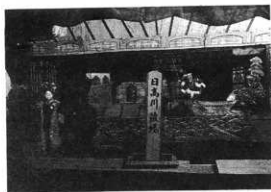
この年より二人遣いとす。

。傾城阿波鳴門十郎兵衛住家の段

太夫・三味線 鶴沢 元助

お弓 武井 志津

おつる 角田 徳子



日高川入相花王渡し場の段

。播州血屋敷青山館の段

太夫・三味線 鶴沢 元助 鉄山 阿左見 晃 三平 金井 光司 菊 武井 光夫 忠太 星野 一信

。日高川入相花王渡し場の段

太夫 阿左見定夫 三味線 鶴沢 元助 清姫 金井美佐保 大蛇 金井 広光 舟長 田辺 みい

この頃榎古場が角田嘉一郎宅から阿左見友吉宅へ移る。

昭和五十五年四月三日 上演 沼須

。三番叟 金井 光司 阿左見 晃

。繪本太功記十段目尼ヶ崎の段

太夫 金井宇太夫 古藤喜一郎 三味線 鶴沢 元助 武智 星野 一信 機 武井 志津 早月 角田 徳子

久吉 星野 恒吉 十次郎 角田 充 初菊 金井美佐保

。朝顔日記宿屋の段

太夫 金井宇太夫 三味線 鶴沢 元助 深雪 角田 徳子 駒沢 金井 光司 岩代 武井 光夫

若侍 阿左見 晃 徳右衛門 星野 一信 その他大勢

十一月二十二日 上演 利根沼田文化会館

利根沼田伝承古典芸能祭に義太夫八日会と共演 語り 登坂 晴吉 三味線 鶴沢鬼美代

繪本太功記十段目尼ヶ崎の段

昭和五十六年二月十二日 展示 群馬県立歴史博物館企画展「上州の人情芝居」

奥州安達原三段目袖萩祭文の段

四月三日 上演 沼須

。三番叟 金井 光司 阿左見 晃

。朝顔日記宿屋の段

太夫・三味線 鶴沢 元助 深雪 角田 徳子 駒沢 金井 光司 岩代 武井 光夫 若侍 阿左見 晃

徳右衛門 星野 一信 人夫・女中その他大勢

。御所桜堀川夜討弁慶上使の段

太夫・三味線 鶴沢 元助 弁慶 角田 充 わさ 武井 光夫

脚の君 阿左見 晃

侍従太郎 金井 光司 信夫 金井美佐保

四月十九日 上演 沼須

國際人形劇の団体四十名見学に来る。御所桜堀川夜討弁慶上使の段を披露する。

七月 星野恒吉保存会長病死につき金井広光会長となる。

十一月 上演 利根沼田文化会館

利根沼田伝承古典芸能祭において御所桜堀川夜討弁慶上使の段

十一月二十七日 上演 沼田市愛岩老人ホーム慰問

繪本太功記十段目尼ヶ崎の段

昭和五十七年四月三日 上演 沼須

。三番叟 金井 光司 阿左見 晃

。御所桜堀川夜討弁慶上使の段

太夫・三味線 鶴沢 元助 弁慶 角田 充 わさ 武井 光夫

侍従太郎 金井 光司 信夫 金井美佐保 脚の君 阿左見 晃

。伽羅先代萩

太夫・三味線 鶴沢 元助 政岡 武井 志津 千松 阿左見 晃

鶴喜代 金井 光司

四月 上演 利根沼田文化会館

利根沼田伝承古典芸能祭において繪本太功記十段目尼ヶ崎の段

沼田利南中学校において生徒の郷土理解のために「伽羅先代萩政岡忠義の段」を上演



三味線 鶴沢 元助

昭和五十八年四月三日

。三番叟 金井 光司 阿左見 晃

。奥州安達原袖萩祭文の段

太夫 阿左見定夫 三味線 鶴沢 元助 袖萩 武井 志津 お君 永井 重子 謙杖 阿左見 晃

浜夕 武井 光夫 貞任 阿左見友吉 宗任 角田 充 八幡 金井 光司

。艶姿女舞衣酒屋の段

太夫 永井 重子 三味線 鶴沢 元助 宗岸 角田 充 お園 武井 志津 半兵衛 金井 正行

妻 金井 光司 半七 金井美佐保 三勝 金井 はる

四月十日 上演 利根沼田文化会館

利根沼田伝承古典芸能祭において艶姿女舞衣酒屋の段

傾城阿波鳴門巡礼唄の段を沼田升形小学校四年生に披露する。

十一月 上演 利南青少年育成教室

御所桜堀川夜討弁慶上使の段

昭和五十九年四月三日 上演 沼須寿量院 沼須人形関係物故者追善供養

。玉藻前旭快道春館の段

太夫 永井 重子 三味線 鶴沢 元助 金藤次 角田 充 萩の方 金井 正行 桂姫 金井 はる

初花姫 金井 光司 采女之助 阿左見 晃

。伽羅先代萩御殿の段

太夫 金井喜代美 三味線 鶴沢 鬼美代 政岡 武井 志津 八汐 角田 充 栄御前 金井 正行

沖之井 金井 竹徳 千松 阿左見 晃 鶴喜代 金井 光司

。艶姿女舞衣酒屋の段

太夫 永井 重子 三味線 鶴沢 元助 宗岸 角田 充 お園 武井 志津 半兵衛 金井 正行



妻 金井 光司 半七 阿左見 晃 三勝 金井 はる

。奥州安達原袖萩祭文の段

太夫 阿左見定夫 三味線 鶴沢 元助 袖萩 武井 志津 お君 永井 重子 謙杖 阿左見 晃

浜夕 金井 竹徳 貞任 阿左見友吉 宗任 角田 充 八幡 金井 光司 捕手・女中その他大勢

四月十五日 上演 利根沼田文化会館

利根沼田伝承古典芸能において玉藻前職快道春館の段

昭和六十年二月十六日 上演 沼田中央公民館

沼田市高齢者教室において艶姿女舞衣酒屋の段

三月六日 傾城阿波鳴門巡礼唄の段を升形小学校三年生六十七名に披露する。

四月三日 上演 沼須

。三番叟 金井 光司 阿左見 晃

。絵本太功記十段目尼ヶ崎の段

太夫 金井 正行 三味線 鶴沢 元助 武智 金井 竹徳 操 武井 志津 皐月 金井 光司

久吉 金井 三次 十次郎 角田 充 初菊 永井 重子 旅僧 阿左見 晃

。本朝廿四孝十種香 狐火の段

太夫 永井 重子 三味線 鶴沢 元助 養作 金井 正行 八重垣姫 武井 志津 濡衣 金井 はる

謙信 金井 三次 狐 金井 竹徳 捕手 角田 充・阿左見 晃 狐火等・その他一同

四月十四日 上演 利根沼田文化会館

利根沼田伝承古典芸能祭において本朝廿四孝十種香狐火の段

昭和六十一年四月三日 上演 沼須

。三番叟 太夫 金井 正行 三味線 鶴沢 元助 金井 光司 阿左見 晃

。玉藻前旭快道春館の段

太夫 永井 重子 三味線 鶴沢 元助 金藤次 角田 充 桂姫 金井 りん 初花姫 阿左見らん

采女之助 金井 かね 萩の方 金井 光司

。御所桜堀川夜討弁慶上使の段

太夫 金井 正行 三味線 鶴沢 元助 弁慶 角田 充 わさ 永井 重子 侍従太郎 金井 竹徳

信夫 金井喜代美 脚の君 金井 かね 花の井 阿左見らん

四月十三日 上演 利根沼田文化会館(利根沼田伝承古典芸能祭)

。御所桜堀川夜討弁慶上使の段

太夫 金井 正行 三味線 鶴沢 元助 弁慶 角田 充 わさ 永井 重子 信夫 金井喜代美

花の井 阿左見らん 侍従太郎 金井 竹徳 脚の君 金井 かね

昭和六十二年四月三日 上演 沼須

。三番叟 太夫 金井 正行 三味線 鶴沢 元助 金井 光司 金井 竹徳 金井 りん(本年より三名舞う)

。御所桜堀川夜討弁慶上使の段

太夫 金井 正行 三味線 鶴沢 元助 弁慶 金井 竹徳 わさ 永井 重子 侍従太郎 金井 伸二

花の井 阿左見らん 信夫 金井喜代美 脚の君 金井 かね

。播州血屋敷青山館の段

太夫 永井 重子 金井 正行 三味線 鶴沢 元助 鉄山 金井 竹徳 忠太 角田 充

菊 金井喜代美 三平 金井 光司 亡霊 阿左見らん

。朝顔日記宿屋の段

太夫 永井 重子 金井 正行 三味線 鶴沢 元助 駒沢 金井 光司 深雪 金井喜代美

岩代 金井 三次 徳右衛門 金井 竹徳 若侍 角田 充 金井 かね

。傾城阿波鳴門巡礼唄の段

太夫 永井 重子 永井久美子 三味線 鶴沢 元助 お弓 武井 志津 おつる 金井 りん

飛脚 金井 かね

四月五日 上演 利根沼田文化会館

利根沼田伝承古典芸能祭において播州血屋敷青山館の段

太夫 永井 重子 金井 正行 三味線 鶴沢 元助 金井 竹徳 角田 充 金井 光司 金井喜代美

昭和六十三年四月三日 上演 沼須

。三番叟 金井 光司他 。

。奥州安達原袖萩祭文の段

太夫 金井 正行 袖萩 武井 志津 八幡 金井 三次 女中 金井喜代美 浜夕 金井 光司

おきみ 永井 重子 貞任 金井 竹徳 宗任 角田 充

四月十日 上演 利根沼田文化会館

利根沼田伝承古典芸能祭において傾城阿波鳴門巡礼唄の段

太夫 永井 重子 永井久美子 三味線 鶴沢 元助 武井 志津 金井喜代美 金井 三次 金井 りん 金井 広光他

平成元年四月三日 上演 沼須

。三番叟 太夫 金井 正行 三味線 鶴沢 元助 金井 光司他 。

。本朝廿四季十種香狐火の段 太夫 金井 三次 三味線 鶴沢豊之助・鶴沢 元助

玉藻前旭袂道春館の段 太夫 永井 重子 三味線 鶴沢 元助 角田 充他

四月九日 上演 利根沼田文化会館

利根沼田伝承古典芸能祭において絵本太功記十段目尼ヶ崎の段

太夫 金井 正行 三味線 鶴沢 元助 武智 金井 竹徳 旅僧 金井 かね 臯月 金井 光司

久吉 金井 三次 十次郎 角田 充 初菊 阿左見らん

平成二年櫓古場が阿左見友吉宅から角田充宅へ移る。

平成二年四月三日 上演 沼須

。三番叟 太夫 金井 三次 三味線 鶴沢 元助 金井 光司他二名

。傾城阿波鳴門巡礼唄の段 太夫 永井 重子 松井 まゆみ 金井 りん 三味線 鶴沢 元助 武井 志津他三名  
。壺坂観音堂験記 太夫 永井 淳 三味線 鶴沢 元助 お里 永井 重子 沢市 金井 光司  
。本朝廿四孝十種香狐火の段 太夫 金井 三次 三味線 鶴沢 元助 金井 はる他六名  
四月八日 上演 利根沼田文化会館

利根沼田伝承古典芸能祭において本朝廿四孝十種香狐火の段

太夫 金井 三次 三味線 鶴沢 元助 養作 金井 光司 八重垣姫 武井 志津 瀧衣 金井 はる

謙信 角田 充 狐 金井 竹徳 捕手 阿左見らん 金井 かね

四月三十日 上演 大間々町小平鐘乳洞公園

。式三番叟 傾城阿波鳴門巡礼唄の段 本朝廿四孝十種香狐火の段

十月二十七日 上演 沼田升形小学校体育館

。式三番叟 傾城阿波鳴門巡礼唄の段

平成三年に入り稽古場が角田充宅から金井初保宅に移る。

平成三年三月十四日 上演 沼田中央公民館ホール

老人・婦人・成人学級の閉講式において新版歌祭文野崎村の段

四月三日 上演 沼須

。式三番叟 太夫 金井 正行 三味線 鶴沢 元助 金井 光司他二名

。日高川入相花王渡し場の段 太夫 金井 りん 三味線 鶴沢 元助 金井 三次他

。菅原伝授手習鑑寺子屋の段 太夫 金井 三次 三味線 鶴沢 元助 松王丸 金井 竹徳 千代 金井 はる

武部源藏 金井 光司 戸浪 武井 志津 春藤玄番 金井 伸二 御台所 金井 かね 小太郎 阿左見らん

捕手 永井 重子 金井 りん

。新版歌祭文野崎村の段 太夫 永井 重子 三味線 鶴沢 元助 阿左見友吉他

四月十四日 上演 利根沼田文化会館

利根沼田伝承古典芸能祭において新版歌祭文野崎村の段

太夫 永井 重子 三味線 鶴沢 元助 お光 武井 志津 お染 阿左見らん

久松 金井 伸一 久作 阿左見友吉 船頭 金井 竹徳 およし 金井 かね

お染の母 金井 りん 駕籠かき 石倉 知美・金井 光司 後見 金井 広光

金井 三次 田辺 みい 金井 はる

十月十九日 上演 桐生倶楽部

桐生ロータリークラブの招きにて 新版歌祭文野崎村の段 日高川入相花

王渡し場の段

十一月二日 上演 沼田中央公民館

沼田市文化祭参加 艶姿女舞衣酒屋の段 日高川入相花王渡し場の段

十一月七日 上演 長野原町山村開発センター

町教委員会・文化協会の招きにて 傾城阿波鳴門巡礼唄の段 新版歌祭文

野崎村の段

平成四年二月五日春の演目の打合せを沼須農事研修所で行い、三題を演ずることとする。

御所桜堀川夜討、弁慶上使の段・艶姿女舞衣酒屋の段・日高川入相花王渡し場の段

稽古日は二月十二日の水曜日より

三月十七日・十八日、岐阜県掛妻郡春日井村より、樞人形の関係者が同様の操り人形が継承されているとのことで研修、見学に七名が来沼。

平成四年四月三日 上演 沼須

式三番叟 太夫 金井 三次 三味線 鶴沢 元助 金井 光司他

御所桜堀川夜討弁慶上使の段 太夫 金井 正行 三味線 鶴沢 元助 柳の君 金井 かね わさ 武井 志津

信夫 金井 光司 花の井 阿左見らん 弁慶 金井 竹徳 侍従太郎 金井 伸二



桐生公演

。艶姿女舞衣酒屋の段 太夫 永井 重子 三味線 鶴沢 元助 半兵衛 阿左見友吉 お園 武井 志津

半七 金井 伸二 お通 金井 かね 宗岸 金井 竹徳 三勝 阿左見らん おかつ 金井 光司

。日高川入相花王渡し場の段 太夫 金井 りん 三味線 鶴沢 元助 清姫 金井 光司 大蛇 金井 広光

舟長 金井 竹徳

景山正隆 東洋大教授 増田良平 群大教授 来場

四月十二日 上演 利根沼田文化会館

利根沼田伝承古典芸能祭において日高川入相花王渡し場の段

太夫 永井 重子 三味線 鶴沢 元助 清姫 金井 光司 船頭 金井 竹徳 大蛇 金井 広光他

四月十九日 諸道具・頭等の片付け 沼田保養センター(上久屋)にて同業私

十月十二日 秋季公演打合せ 四か所での公演決定

十月二十五日 群馬県立歴史博物館 十一月二日 沼田市中央公民館

十一月二十八日 嬭恋村嬭恋会館 十二月五日 長野県町山村センター

十月二十五日 上演 群馬県立歴史博物館

。日高川入相花王渡し場の段

太夫 金井 りん 三味線 鶴沢 元助 清姫 金井 光司 大蛇 金井 広光 舟長 金井 竹徳

。傾城阿波鳴門巡礼唄の段

太夫 永井 重子 三味線 鶴沢 元助 十郎兵衛 金井 竹徳 お弓 武井 志津 飛脚 金井 かね

おつる 阿左見らん

十一月二日 上演 沼田中央公民館文化祭

。日高川入相花王渡し場の段

太夫 金井 りん 三味線 鶴沢 元助 清姫 金井 光司 大蛇 金井 広光 舟長 金井 竹徳

。傾城阿波鳴門巡礼唄の段

太夫 永井 重子  
三味線 鶴沢 元助  
十郎兵衛 金井 竹徳  
お弓 武井 志津  
飛脚 金井 かね

おつる 阿左見らん

十一月二十八日 上演 蟬恋会館

。傾城阿波鳴門巡礼唄の段

太夫 永井 重子  
三味線 鶴沢 元助  
十郎兵衛 金井 竹徳

お弓 武井 志津  
飛脚 金井 かね  
おつる 阿左見らん

。新版歌祭文野崎村の段

十二月五日 上演 長野原町山村センター

。艶姿女舞衣酒屋の段

。日高川入相花王渡し場の段

十二月六日 秋季公演の同業弘と反省会、稽古場の金井初保宅にて

### 七、歴代座長

初代 金井仁左衛門

嘉永三（一八五〇）年一月二日生まれで、代々「仁左衛門」を名のり、三代目仁左衛門となり、芸好きで絵かきを宿泊させたり、壁人形などを操作し人形芝居に興味をもっていた。明治三十三年九月二日五十一歳没

仁左衛門（徳衛門）— 元吉

儀八（三代座長）  
儀作（四代座長）

三次（六代座長）

ミサヲ（人形師）



金井仁左衛門の墓

二代 金井 佐勝

嘉永七（一八五四）年十一月十七日生まれで昭和九年十月二十四日八十一歳没。芸術家タイプ・粋・器用であり、農業のかたわら神主を務めていた。大正十二、三年頃、沼須に坪内逍遙・生方誠・高野辰之などが沼須人形の東京公演の下見に来た時、二代目が人形を操作して見せ、名を聞かれ「金井佐勝」と答えたところ「芸人のような名である」と驚いたという。没した時は、神主の白装束姿で埋葬され、初七日には次の座長を受けるべく次男長三が中心となり人形芝居を全座員でまわした。好きな人形芝居に送られて旅立って行った。



名人形師 金井 長三

二代座長金井佐勝の次男で明治十九年五月十二日生まれで大正八年一月に旧薄根村堀廻の石原家に婿に入った。婿に入る条件として「沼須人形芝居をまわせなければ婿に行かない」という約束であった。酒と芸的なことが好きで器用な人であり婿入りしてからも人形芝居が上演される時には必ず帰ってきてゲストとして人形をまわしていた。昭和二十七年十月十二日に久しぶりに上演、この時長三三十六歳。「日高川入相花王渡し場の段」・「弁慶上使」・「朝顔日記宿屋の段」などに出演し、客



人形師 長三



二代目 金井 佐勝



席から「長さん」の掛け声がかかった。昭和三十六年十二月二十三日、七十五歳で没。

三代目 金井 儀八

明治十三年二月十四日生まれで昭和八年、五十四歳没。二代目座長が高齢のためできなくなり、後継者となり東入り・西入り・勢多の方面にまで出かけ一カ月の長期の興業であった。身体は細く常に着物姿であった。

四代目 金井 儀作

明治二十七年七月二十四日生まれで三代目の弟で昭和二十七年兄儀八のあとをつぎ四代目となった。常に人形を持ち歩き、養蚕の忙がしい時、桑とりに行くといつて他の祭りでも人形をまわしていた。若衆に教えるのに手取り足取りではなく、

「見て覚えろ」と厳しく儀作は

「女形」専門であり、金井長三

・金井儀八・金井儀作の三人は、

高度な人形まわしの技術を持ち、

「まるで人形が生きているよう

だ」と聴衆が感嘆していた。

五代 石井 実

明治四十四年七月二十二日生ま

れで昭和二十年代に人形芝居の座員で伯母になる「石井あい」の誘いにより入座した。市指定文化財調査が始まり昭和五十年一月前座長金井儀作が高齢となり動けなくなったので座員の中で年配だということで座長になり、座員相談の上「あけぼの座」と正式名にした。掛紙や舞台作りが専門であり、上演中は掛紙の裏でローソクを照明としたので、その係や掛紙交換や保存に携わり、人形まわしは誰かの代役で出場するぐらいであった。昭和六十三年三月まで務めた。この間座員の高齢化とまわす人が不足したので、座員一人が一人の後継者を見つ



四代目 金井 儀作



三代目 金井儀八の家

けるように努めてきたが思うように集まらなかつた。

六代目 金井 三次

大正十二年二月三日生まれで昭和六十三年四月に座長を受けついで。父儀作が人形芝居に入り座長まで務めたので幼少の頃より人形芝居は見ていた。父に誘われ自然とこの道に入り、阿波鳴門や太功記十代目などに出演していた。平成四年十二月六日まで座長を務めた。

七代目 金井 光司

大正五年九月二十二日生まれで昭和五十年頃より人形をまわし始め、保存会副会長を十五年ほど務め平成四年十二月七日付で座長となった。

これら座長を陰になり日向になり人形芝居を支えてきたのは保存会長の金井広光と実際に人形まわしを指導してきた阿左見友吉の両名である。保存会会長は昭和五十年から阿左見正勝、昭和五十五年七月から星野恒吉、昭和五十五年八月から金井広光である。



五代目 石井 実 (左から2番目)  
七代目 金井光司 (左から6番目)  
二代目 保存会長 星野恒吉 (左から3番目)



三代目保存会長 金井 広光  
初代保存会長 阿左見正勝



六代目 金井 三次 (左から3番目)

## 現在の沼須人形芝居

### 一、座員（十四名）

昔より座員としての特別な資格はなく、人形芝居の好きな人なら自由に入れる。

座長 金井 光司	大正五年九月二十二日生	金井 広光	大正十一年九月二十六日
会計 武井 志津	大正三年十月二十二日生	金井 りん	大正五年十一月五日生
座員 阿左見友吉	大正四年二月二日生	金井 三次	大正十二年二月三日生
“ 阿左見きく	大正六年三月二十六日生	金井 はる	昭和四年六月三日生
“ 金井 伸二	昭和五年六月十日生	金井 かね	大正三年三月二十四日生
“ 金井 竹徳	昭和二十一年十月十三日生	永井 重子	昭和七年五月十八日生
“ 金井ミサヲ	大正十二年六月十一日生		
“ 阿左見らん	大正十五年十二月三日生		

### 二、上演目（十五座）

- 。傾城阿波鳴門巡礼唄の段
- 。艶姿女舞衣酒屋の段
- 。新版歌祭文野崎村の段
- 。沼田城物語
- 。播州血屋敷青山館の段
- 。御所桜堀川夜討弁慶上使の段
- 。日高川入相花王渡し場の段
- 。伽羅先代萩御殿の段
- 。奥州安達原袖萩祭文の段
- 。菅原伝授手習鑑寺子屋の段
- 。朝顔日記宿屋の段
- 。玉藻前旭袂道春館の段
- 。本朝廿季十種香狐火の段
- 。壺坂観音靈験記
- 。繪本太功記尼ヶ崎の段



座員



#### 四、沼須人形芝居保存会 会 則

##### 第一章 総 則

第一条 本会は郷土芸能沼須人形芝居保存会と称す。上演部を置き、あけぼの座と称す。

第二条 本会は同好者相互の親睦と人形芝居の保存振興を図ると共に地域文化の向上に資するを目的とする。

第三条 本会の事務所は原則として沼須町甲六四八 会長宅に置く。  
(電話 二二一六九一八)

##### 第二章 会 員

第四条 本会は沼須町在住者で、本会の趣旨に賛同する者を以て原則とするも、その他本会の趣旨に賛同協力する者をもって会員とする。

##### 第三章 役 員

第五条 本会に左の役員を置く。

1. 会長 一名 2. 副会長 一名 3. 庶務 一名 4. 太夫元 一名
  5. 会計 一名 6. 理事 若干名 7. 監査 一名 8. 幹事 各組伍長
- 一、会長は本会を代表し、総会、役員会、理事会を召集し、会の運営統括をはかる。

二、副会長は会長を補佐し、会長事故ある時は之を代行する。

三、庶務は会務並びに事務一切を処理する。

四、会計は経理一切を掌る。

五、理事(太夫元)は理事会に出席する。

六、幹事は会費を徴収する。

七、監査は会計を監査して総会に報告する。

役員は何れも理事を兼ねるものとし、任期は一年とする。但

し幹事は一年とする。再選を妨げない。会長、副会長、庶務、会計、監査は総会において選任する。

第六条 本会に顧問を置くことができる。

##### 第四章 会 議

第七条 本会を運営するため左の会議を開く。

##### 一、総会及び理事会

毎年四月開催し年度内における事業並に会計報告をなし、その承認を求むると共に次年度における計画等の発表を行なう。総会は理事会をもって之にかえることができる。

##### 二、臨時総会 必要と認める時随時行なう。

##### 第五章 事 業

第八条 本会は目的を達成するため左の事業を行なう。

##### 一、祭典、各種事業等における上演

##### 二、諸用品の保存修理技能の伝習、其の他

##### 三、郷土芸能各種団体との連絡新道大家の講演等必要と認めた事業

##### 第六章 会 計

第九条 本会は左の収入をもって経費にあてる。

##### 一、会 費 役員会もしくは理事会において決定する。

##### 二、会費及び事業による収益及び有志者の寄付金

第十条 本会の会計年度は毎年三月末日とする。

##### 第七章 附 則

第十一条 本会に必要な細則は理事会において之を定める。

##### 一、慶弔規定 あげばの座員に不慮の事故あるときは弔辞、花輪等を贈呈するものとする。

##### 三、本会則は、昭和五十年一月十九日より施行する。

(平成元年一部改正)

## 沼須人形芝居の稽古

一、平成三年あけほの一座の動き

- 一月十日 新年会 人形芝居稽古始 本読み「新版歌祭文野崎村の段」 配役発表  
 一月十二日 ビデオ勉強会 衣裳合せ「新版歌祭文野崎村の段」  
 一月十七日 「新版歌祭文野崎村の段」 義太夫のテープで稽古 一回  
 一月十九日 「新版歌祭文野崎村の段」 義太夫のテープで稽古 二回  
 もぐさをすえるため、久作の人形に足がつく。  
 一月二十四日 「新版歌祭文野崎村の段」 義太夫のテープで稽古 二回  
 一月二十六日 「新版歌祭文野崎村の段」 義太夫のテープで稽古 二回  
 船頭の裸人形(胴体)初見え ビデオ学習「文楽鑑賞入門」視聴  
 一月三十一日 「新版歌祭文野崎村の段」 義太夫のテープで稽古 二回  
 船頭の手足出来る  
 二月二日 「新版歌祭文野崎村の段」 義太夫のテープで稽古 二回  
 文楽鑑賞入門(第四回)を視聴する  
 二月七日 「新版歌祭文野崎村の段」 義太夫のテープで稽古 二回  
 二月九日 「新版歌祭文野崎村の段」 義太夫のテープで稽古をビデオ撮り  
 その後視聴  
 二月十四日 「新版歌祭文野崎村の段」 義太夫のテープで稽古 一回  
 「菅原伝授手習鑑寺子屋の段」 ビデオ勉強会・役割決め



稽 古 中

二月十六日

「菅原伝授手習鑑寺子屋の段」 衣裳合せと準備

二月二十八日

「菅原伝授手習鑑寺子屋の段」 義太夫のテープで稽古 二回

三月二日

「菅原伝授手習鑑寺子屋の段」 義太夫のテープで稽古 二回

三月五日

「菅原伝授手習鑑寺子屋の段」 義太夫のテープで稽古

三月七日

「新版歌祭文野崎村の段」 義太夫のテープで稽古 二回

三月九日

「新版歌祭文野崎村の段」 義太夫のテープで稽古 二回

三月十三日

「新版歌祭文野崎村の段」 義太夫のテープで稽古 二回

三月十四日

「新版歌祭文野崎村の段」 公演 老人・婦人・青年学級の閉講式にて 沼田中央公民館

三月十九日

「菅原伝授手習鑑寺子屋の段」 義太夫のテープで稽古 二回

三月二十一日

「菅原伝授手習鑑寺子屋の段」 義太夫のテープで稽古 二回

三月二十三日

「日高川入相花王渡し場の段」 「三番叟」 義太夫のテープで稽古 各二回

三月二十六日

「三番叟」 義太夫のテープで稽古 二回半

「日高川入相花王渡し場の段」 義太夫のテープで稽古 二回

三月二十八日

「菅原伝授手習鑑寺子屋の段」 ・ 「日高川入相花王渡し場の段」 ・ 「三番叟」を義太夫のテープで稽古 各一回

三月三十日

「日高川入相花王渡し場の段」 ・ 「菅原伝授手習鑑寺子屋の段」 ・ 「新版歌祭文野崎村の段」 義太夫のテープで稽古 各一回

三月三十一日

総練習 午後一時三十分～五時三十分 「三番叟」 ・ 「日高川入相花王渡し場の段」 ・ 「菅原伝授手習鑑寺子屋の段」

四月三日

・ 「新版歌祭文野崎村の段」  
砥石神社春季祭 午前中 一切経 午後 沼須人形芝居公演 「三番叟」 ・ 「日高川入相花王渡し場の段」 ・ 「菅原伝授手習鑑寺子屋の段」 ・ 「新版歌祭文野崎村の段」



中 演 上

四月十二日

利根沼田古典芸能祭の公演準備 春季祭のビデオ視聴

四月十四日

利根沼田古典芸能祭「新版歌祭文野崎村の段」公演 人形の着物干し

本日のビデオ視聴

四月十五日

人形道具倉庫仕舞い

五月三日

群馬県知事総合表彰 教育文化功労賞受賞 群馬県民会館 金井広光

阿左見友吉 出席

五月八日

平成三年度 春行事の同業払い 月夜野町

六月

稽古場替わる 金井初保宅となる。

六月二十九日

平成三年度 群馬県教育文化功労賞受賞記念祝賀会 沼須農事研修所

九月四日

秋季練習会場の打合せ 金井初保宅

九月十七日

長野原町より十二月公演の打合せに来沼 教育長・文化協会会長他七名

演目決定「傾城阿波鳴門巡礼唄の段」・「新版歌祭文野崎村の段」

九月二十五日

桐生公演の打合せ 演目決定「日高川入相花王渡し場の段」・

「新版歌祭文野崎村の段」

九月二十六日

沼田市ビデオクラブ秋の練習風景を撮影することとなる 金井竹徳が説明する。

十月四日

衣裳合せ 「日高川入相花王渡し場の段」 稽古 一回

十月五日

「日高川入相花王渡し場の段」 稽古 二回

十月九日

「新版歌祭文野崎村の段」 稽古 一回 「日高川入相花王渡し場の段」 稽古 一回

十月十・十一日

桐生公演の稽古 一回

十月十四日

第六十八回秋季群馬県義太夫大会に座員三名出演 松井田町八代西住民センター

十月十五・十六日

桐生公演の稽古

十月十八日

桐生公演の総稽古 荷造り



知事からの表彰状



十月十九日 桐生公演 桐生ロータリークラブの招きにて 「新版歌祭文野崎村の段」・「日高川入相花王渡し場の段」

桐生倶楽部 出発午前七時三〇分 帰着午後六時

十月二十一日 沼田市文化祭に参加するため 稽古 衣裳合せ

「艶姿女舞衣酒屋の段」・「日高川入相花王渡し場の段」

十月二十三日 「艶姿女舞衣酒屋の段」・「日高川入相花王渡し場の段」 稽古 各一回

十月二十八・二十九日 「艶姿女舞衣三勝七酒屋の段」・「日高川入相花王渡し場の段」 稽古 各一回

十月三十日 総稽古 荷造り 「艶姿女舞衣酒屋の段」・「日高川入相花王渡し場の段」

十一月二日 沼田市文化祭にて公演 「艶姿女舞衣酒屋の段」・「日高川入相花王渡し場の段」

十一月八日 長野原町公演の衣裳合せと稽古 「傾城阿波鳴門巡礼唄の段」

十一月十三・二十日 「傾城阿波鳴門巡礼唄の段」 稽古 二回

十一月二十七日・十二月四日 「傾城阿波鳴門巡礼唄の段」・「新版歌祭文野崎村の段」 稽古 各一回

十二月六日 総稽古 荷造り 「傾城阿波鳴門巡礼唄の段」・「新版歌祭文野崎村の段」

十二月七日 長野原公演 長野原町教育委員会・文化協会の招きにて 長野原町山村開発センター

「傾城阿波鳴門巡礼唄の段」・「新版歌祭文野崎村の段」 出発午前八時 帰着午後六時

十二月十日 人形道具倉庫仕舞い 忘年会 新治村

## 沼須人形芝居の特徴

### 一、人形の頭

頭は小さく一人操りで、現在二十八頭。頭頂よりあごまで約八センチから十センチ、あごより胴串は五センチから六センチで頭によって多少のちがいがあつた。目・口・まゆ毛などが動く頭は四個、うるしが塗つてあり桐材で、頭の下はのど木の首、首の下はゴウ串である。頭の毛は役によって毛を結び分けていた。ハサミ式で遣い手は人形衣裳の背中を割つて右手もしくは左手を差し込む背中差込み式の立遣いで、頭を人差指と中指で頭のだの木から出たゴウ串をはさみ操作する。

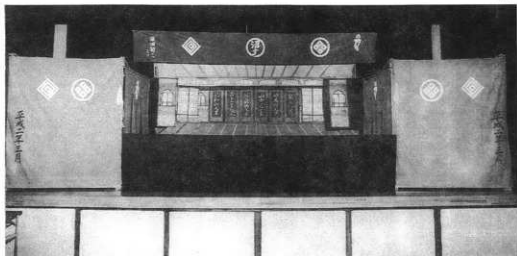
### 二、人形の手

遣い手の右手につける場合は右手小指に人形の右手をつけ、遣い手の右手親指に人形の左手を付ける。人形の手は白布に芯として銅線を入れ骨としている。胴着はふくらみを出すために綿を入れてある。遣いの左手は自分の右手の肘をもち、着物の裾を動かしたり眼・口・まゆ毛を動かす場合に紐を引く、紐は頭の内部より串の中心を通りその下端からU字型に出ている。人形芝居が復活した昭和五十年代頃は右手でまわしていたのだが、昔は左手に人形をつけてまわしていたのだらうとの考えが最近強くなつてきた。それは、左手でまわし利きうである右手で眼・口・まゆ毛などを細かく動かし、着物の裾さばき・袖・手紙をひろげる所作など人形をつけない方の手が重要な役割をしていた。立つて操作するので人形の動く範囲が広い、指人形の一人遣いの古い形式を残しながら、いざりながら底に姿を隠して遣うのでなく立つて遣う形態へ移つてゐる。

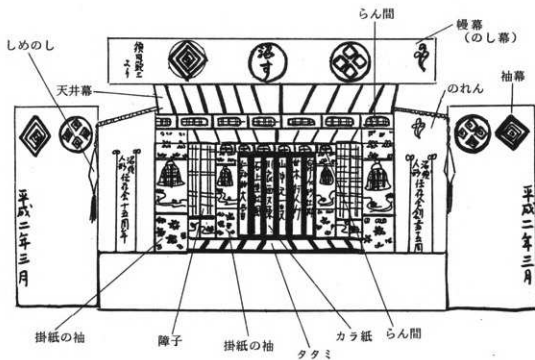


頭の内部

三  
舞  
台



舞 台



舞台の広さは二間あれば十分で、幕末の頃は御座敷で上演でき舞台装置なしで出かける時も人形と掛紙を持参すれば上演できる程度であった。舞台人形初期のものであらうと考えられている。正面幅二間・奥行十一尺・高さ八尺で、腰幕高さ三尺三寸、本手の高さ三尺六寸、その奥三尺九寸、最後部が四尺二寸、三の間に区切られており、前面が舟底で奥行が三尺五寸、二重が三尺、三重が二尺五寸ずつ小さくなっている。遠近法を利用したもので、舞台が奥深く見えるようになってきている。座敷用組立式舞台なので材料はすべて組込みになっており釘は使っていない。前面からの横木二間は一間ずつのをつなぎ、そのつなぎ目には金具でとめている。一番前の平舞台での上演が半分以上で、三重までを使用するのは奥州安達原三段目である。

照明はローソクを使う、本手と腰幕の上の二の手の上に立てるほか、二の手（前面の横木）には蛍光灯を取りつけ、背景にはローソクを使用していた。現在では舞台も改良されている。

#### 四、人形芝居として

農村沼須に生き続ける沼須人形は人形を上演する時期になると農業に必要な雨をもたらしにくれたり、ひでりの時は人形をまわすと雨が降り、雨が降り農作業ができない時に人形をまわしたことから「雨降り人形」とも言われて来た。舞台背景の横用の文字に「吊人形仕掛」とあるが千葉與袖ヶ浦飯富の吊人形に似ているといわれ、左手で袖・裾を巧みにさばく、ぶくさ人形の系統に入るのかもしれない。



吊人形仕掛

「伽羅先代萩」の政岡の人形のつけ方

(表側)

①人形師の手のにぎ  
り方  
右手あるいは左手  
の親指と小指をた  
てて他の指はにぎ  
る。



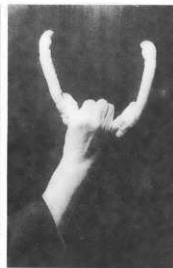
②人形の手をつける  
人形師の親指と小  
指に人形の手をつ  
ける。  
人形の手は綿を布  
でまいたもので中  
に針金が入って中  
が自由なまげら  
れる。(自由なまげ  
ることが出来る)



③人形の身体をつけ  
る。  
網着と呼ばれる手  
製の身体をつける。  
胴着のヒモは人形  
師の手首のあたり  
になるようにする。



(裏側)





③ 頭をつけて出  
来上り



⑤ 内掛をさせる。



④ 着物をさせる。

(表側)



(裏側)



図版編 「人形諸用品」

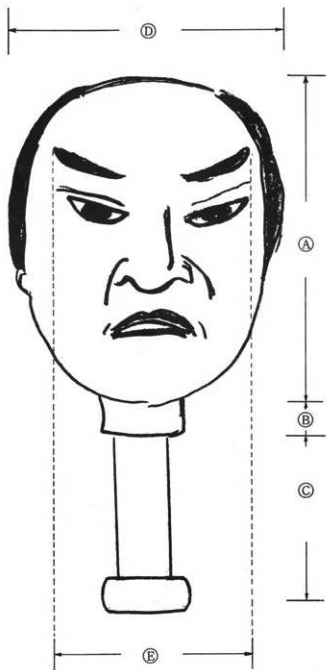
- 一、頭（かしら）
- 二、操り用品と身体
- 三、綺羅（衣裳）
- 四、小道具
- 五、大道具
- 六、掛紙（背景）
- 七、幕
- 八、綺羅一覧表（三での掲載を除く）



## 演 題 の 略

傾城阿波鳴門 巡礼唄の段・十郎兵衛住家の段 .....	鳴 門
朝顔日記 宿屋の段 .....	朝 顔 日 記
絵本太功記十段目 尼ヶ崎の段 .....	太 十 (太 功 記)
日高川入相花王 渡し場の段 .....	日 高 川
伽羅先代萩 御殿の段 飯炊の場(上) 忠義の場(下) .....	先 代 萩
奥州安達原 袖萩祭文の段 .....	安 達 原 (雪 ふ り)
播州皿屋敷 青山館の段 .....	鉄 山 皿 屋 敷
御所桜堀川夜討 弁慶上使の段 .....	弁 慶 上 使
艶姿女舞衣 酒屋の段 .....	酒 屋 (三 勝)
玉藻前旭袂 道春館の段 .....	玉 三 (道 春 館)
本朝廿四孝十種香 狐火の段 .....	廿 四 孝
壺坂観音霊験記 沢市内の段 .....	壺 坂
菅原伝授手習鑑 寺子屋の段 .....	寺 子 屋
新版歌祭文 野崎村の段 .....	野 崎 村

頭  
實  
測  
圖





1. 名称 年輩の男
2. 演題 鳴門
3. 役柄 年輩の男 十郎兵衛
4. 寸法 ㊤ 95 ㊦ 25 ㊨ 4  
㊩ 75 ㊪ 55
5. 特徴 侍藍 色白



1. 名称 若侍
2. 演題 酒屋
3. 役柄 若侍 半七
4. 寸法 ㊤ 105 ㊦ 15 ㊨ 5  
㊩ 75 ㊪ 45
5. 特徴 侍藍 色白



1. 名称 武士
2. 演題 弁慶上使
3. 役柄 弁慶
4. 寸法 ㊤ 10 ㊦ 2.6 ㊨ 5  
㊩ 8 ㊪ 6
5. 特徴 色白



1. 名称 老人
2. 演題 宿屋 野崎村
3. 役柄 徳右エ門 久作
4. 寸法 ㊤ 9 ㊦ 25 ㊨ 45  
㊩ 7 ㊪ 6
5. 特徴 白髪 色白



1. 名称 武士
2. 演題 道春館 日高川
3. 役柄 金藤次 舟長
4. 寸法 ㊤ 9 ㊦ 2 ㊨ 45  
㊩ 7 ㊪ 6
5. 特徴 色赤



1. 名称 武者 公家
2. 演題 安達原
3. 役柄 阿部の貞任
4. 寸法 ㊤ 13 ㊦ 15 ㊨ 5  
㊩ 8.5 ㊪ 5
5. 特徴 銅板型 色白



1. 名称 俊寛  
 2. 演題 俊寛島物語  
 3. 役柄 俊寛  
 4. 寸法 ㊤10.5 ㊦2 ㊧4  
 ㊨8 ㊩5.5  
 5. 特徴 のびほうだいの髪 白



1. 名称 公家  
 2. 演題  
 3. 役柄 公家  
 4. 寸法 ㊤9 ㊦1.8 ㊧5.5  
 ㊨8 ㊩5.5  
 5. 特徴 銅板型 色 桃色



1. 名称 老爺  
 2. 演題 安達原  
 3. 役柄 老爺 倭仗  
 4. 寸法 ㊤12 ㊦3 ㊧4  
 ㊨8 ㊩6  
 5. 特徴 侍鬘 白髪まじり 色白



1. 名称 ちゃり  
 2. 演題  
 3. 役柄 捕手 町人  
 4. 寸法 ㊤9 ㊦2 ㊧4  
 ㊨7 ㊩6  
 5. 特徴 侍鬘 色 肌色



1. 名称 侍(悪役)  
 2. 演題  
 3. 役柄 悪役  
 4. 寸法 ㊤11 ㊦2.5 ㊧3.5  
 ㊨7 ㊩6.5  
 5. 特徴 侍鬘 色 白



1. 名称 僧侶  
 2. 演題 三番叟  
 3. 役柄 僧侶 ちゃり  
 4. 寸法 ㊤8.5 ㊦3 ㊧5  
 ㊨7 ㊩5.5  
 5. 特徴 色 白



1. 名称 子役
2. 演題 先代萩
3. 役柄 干松
4. 寸法 ㊤9 ㊥2.5 ㊦5  
㊧5 ㊨5
5. 特徴 色白



1. 名称 ちゃり
2. 演題 捕手 町人
3. 役柄 捕手 町人
4. 寸法 ㊤9.5 ㊥2 ㊦4  
㊧4 ㊨5.5
5. 特徴 侍鬘 色肌色



1. 名称 ちゃり
2. 演題 野崎村
3. 役柄 舟頭 滑けいな役
4. 寸法 ㊤9 ㊥3 ㊦5  
㊧5 ㊨5.5
5. 特徴 侍鬘 色肌色



1. 名称 女形
2. 演題 弁慶上使
3. 役柄 おわさ
4. 寸法 ㊤14 ㊥2 ㊦4  
㊧9 ㊨4
5. 特徴 御殿風 色白



1. 名称 年輩の女形
2. 演題 先代萩
3. 役柄 政岡
4. 寸法 ㊤12 ㊥2 ㊦4  
㊧4 ㊨4.5
5. 特徴 丸まげ 色白



1. 名称 若侍
2. 演題 若侍
3. 役柄 若侍
4. 寸法 ㊤10 ㊥1.5 ㊦4.5  
㊧8 ㊨4
5. 特徴 若衆まげ 色白



1. 名称 女の子  
 2. 演題 鳴門  
 3. 役柄 おつる  
 4. 寸法 ㊤10 ㊤2 ㊤3.5  
 ㊤6 ㊤3.6  
 5. 特徴 色白 ほほはピンク



1. 名称 (年増女)  
 2. 演題  
 3. 役柄  
 4. 寸法 ㊤13 ㊤2 ㊤5  
 ㊤9 ㊤4.5  
 5. 特徴 色白



1. 名称 女形  
 2. 演題 先代萩  
 3. 役柄 八汐  
 4. 寸法 ㊤14 ㊤2.5 ㊤5.5  
 ㊤7.5 ㊤3.5  
 5. 特徴 色白



1. 名称 老婆  
 2. 演題 安達原  
 3. 役柄 老婆 浜夕  
 4. 寸法 ㊤10 ㊤2 ㊤4  
 ㊤7 ㊤4.5  
 5. 特徴 色白



1. 名称 女のちゃり  
 2. 演題 三番叟  
 3. 役柄 下女 田植女  
 4. 寸法 ㊤10 ㊤2.5 ㊤4  
 ㊤4 ㊤5  
 5. 特徴 色白



1. 名称 娘の子役  
 2. 演題 安達原  
 3. 役柄 お君  
 4. 寸法 ㊤9 ㊤2 ㊤4  
 ㊤6 ㊤4  
 5. 特徴 色白



1. 名称 猿  
 2. 演題  
 3. 役柄 猿  
 4. 寸法 高 14  
           幅 8  
 5. 特徴 色 赤



1. 名称 ゆうれい  
 2. 演題  
 3. 役柄 ゆうれい  
 4. 寸法 ㊤ 15 ㊦ 6 ㊨ 4  
           ㊩ 15 ㊪ 6 着丈 45  
 5. 特徴 色 白



1. 名称 鬼  
 2. 演題 日高川  
 3. 役柄 鬼女  
 4. 寸法 ㊤ 12 ㊦ 2 ㊨ 4  
           ㊩ 7 ㊪ 5  
 5. 特徴 ふり髪 色 白



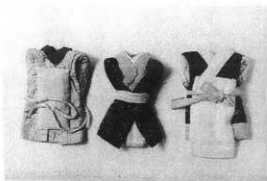
1. 名称 人形の手③  
 2. 演題 改良の一つとして  
 3. 材質 布  
 4. 寸法 高 14  
           幅 25  
 5. 備考 白手袋に手をつける



1. 名称 人形の手②  
 2. 演題 改良の一つとして  
 3. 材質 布  
 4. 寸法 高 13  
           幅 3  
 5. 備考 手をつける所にマジックテープを使用



1. 名称 人形の手①  
 2. 演題 布  
 3. 材質 高 14  
           幅 2  
 4. 寸法  
 5. 備考 右手につける場合、親指に人形の左手、小指に人形の右手をつける



1. 名称 胸輪各種  
 2. 演題 布  
 3. 材質  
 4. 寸法 ① 総丈 28 幅 18  
           ② 総丈 30 幅 20  
 5. 備考 タオルを胸の部分にあてたり人形のふくらみを出すため工夫してある



1. 名称 黒子用具  
 2. 演題 布  
 3. 材質  
 4. 寸法 ① 高 60 幅 35  
           ② 高 21 幅 10  
           ③ 高 10 幅 21  
           ④ 高 30 幅 18  
 5. 備考 操り手の顔や手を隠すため黒子、黒手袋、手甲など使う





1. 名称 子供の死骸
2. 演題 鳴門 弁慶上使
3. 材質 布
4. 寸法 左より 総丈 34 幅 12  
42 22  
49 36
5. 備考 上演中、死骸となった子役に使用



1. 名称 座布団
2. 演題
3. 材質 布と綿
4. 寸法 高 28  
幅 28
5. 備考 ひざあて 背をひくく、中腰で操る時左右のひざに付け立てひざで同時に使う



1. 名称 足付の裸体
2. 演題 野崎村 日高川
3. 材質 布
4. 寸法 総丈 50  
幅 42.5
5. 備考 船頭

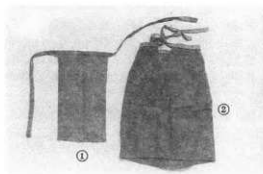
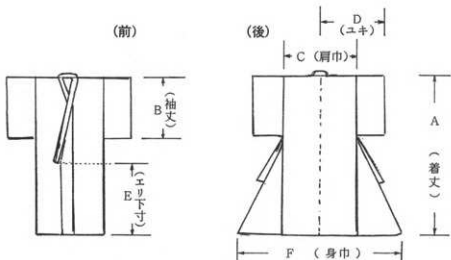


1. 名称 死骸
2. 演題 先代萩
3. 材質 布
4. 寸法 総丈 67  
幅 45
5. 備考 千松の死骸

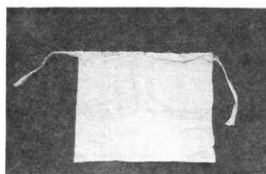


1. 名称 三番叟
2. 演題 三番叟
3. 材質 布
4. 寸法 総丈 72  
幅 38
5. 備考 三番叟

三 綺 羅 ( 衣 裳 )



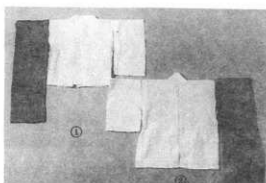
1. 名称 前掛 腰巻
2. 材質 布
3. 寸法 ① 25 × 75 ② 33 × 78
4. 備考 ① まえかけ ② 腰巻き



1. 名称 腰巻
2. 材質 布
3. 寸法 高 27 幅 33 ヒモ 73
4. 備考



1. 名称 白無垢
2. 材質 布
3. 寸法 ① A62 B18 C25 D23.5 E22 F55 ② A46 F38
4. 備考 寺子屋の松王丸



1. 名称 じゅばん
2. 材質 布
3. 寸法 高 23 幅 49
4. 備考 ① おわさ用 ② 弁慶用  
白地にそで赤地に花もようあり



1. 名称 着物  
 2. 材質 布  
 3. 寸法 A ⑥1 ④40 B 30 C 28  
           D ②8 ④20 E 21.5 F 63  
                           18.5 F 40  
 4. 備考 女性用



1. 名称 紋付  
 2. 材質 布  
 3. 寸法 A 68 B 20 C 24  
           D 24 E 23 F 60  
 4. 備考 婦人用



1. 名称 長じゅばん  
 2. 材質 布  
 3. 寸法 A 61 B 34 C 26  
           D 25 E 30 F 63  
 4. 備考



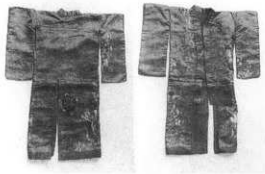
1. 名称 打掛  
 2. 材質 布  
 3. 寸法 A 63 B 36 C 29  
           D 28 E 23 F 60.5  
 4. 備考 お光等



1. 名称 打掛  
 2. 材質 布  
 3. 寸法 A 58 B 32 C 30  
           D 27 E 24 F 52  
 4. 備考



1. 名称 打掛  
 2. 材質 布  
 3. 寸法 A 52.5 B 24 C 16  
           D 20 E 23.5 F 68  
 4. 備考 奥方用



1. 名称 打掛 (2着)
2. 材質 布
3. 寸法 A 65 B 33 C 29  
D 26 E 21 F 44
4. 備考 奥方用



1. 名称 打掛
2. 材質 布
3. 寸法 A 63 B 34 C 27  
D 31 E 39 F 70
4. 備考



1. 名称 着物と袴天
2. 材質 布
3. 寸法 ① A 63 B 275 C 23  
D 23 E 21 F 44  
② A 35 B 35 C 26  
D 26 E F 38
4. 備考



1. 名称 着物
2. 材質 布
3. 寸法 A 59 B 27  
C 24 D 24  
E 22 F 67
4. 備考 久松、半七等



1. 名称 紐
2. 材質 布
3. 寸法
4. 備考



1. 名称 十徳
2. 材質 布
3. 寸法 A 50 B 22.5  
C 27 D 26  
E F 66
4. 備考 宗岸



1. 名称 着物(2着)
2. 材質 布
3. 寸法 A 71 B 28  
C 28 D 28  
E 24 F 72
4. 備考 男性用



1. 名称 着物
2. 材質 布
3. 寸法 A 63 B 23  
C 25 D 23  
E 22 F 61
4. 備考 男物



1. 名称 直垂  
 2. 材質 布  
 3. 寸法 A 53 B 42  
           C 19 D 28  
           E     F 38  
 4. 備考



1. 名称 よろいの下着  
 2. 材質 布  
 3. 寸法 A 60 B 14  
           C 28 D 27  
           E 20 F 51  
 4. 備考



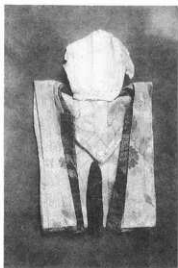
1. 名称 よろいの下着  
 2. 材質 布  
 3. 寸法 A 65 B 18  
           C 25 D 33  
           E 23 F 61  
 4. 備考



1. 名称 はおり  
 2. 材質 布  
 3. 寸法 A ① 37 B 26 C 23  
           ② 45.5 B 27 C 26  
           D ① 23 F 54  
           ② 25.5 F 56  
 4. 備考 年配の男性用



1. 名称 上使の衣裳  
 2. 材質 布  
 3. 寸法 A ① 39  
           B ① 28.5  
           F ① 39  
 4. 備考 弁慶等



1. 名称 陣羽織
2. 材質 布
3. 寸法 A 35 C 30 F 52
4. 備考 大將用



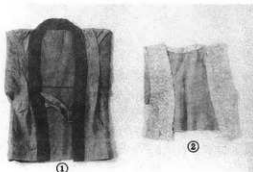
1. 名称 はおり
2. 材質 布
3. 寸法 A 35 B 39 C 23  
D 21 E F 48
4. 備考 三番叟の上衣



1. 名称 はおり
2. 材質 布
3. 寸法 A 45 B 26 C 19  
D 24 E F 47
4. 備考 若待用



1. 名称 陣羽織
2. 材質 布
3. 寸法 A 36 B 26 F 43
4. 備考 武士用



1. 名称 はんてん
2. 材質 布
3. 寸法 ① A 33 C 28 F 50  
② A 20 C 19 F 36
4. 備考



1. 名称 順礼の衣裳  
 2. 材質 布  
 3. 寸法 ① A61 B26 C20 D24 E24 F54  
 ② A28 B C20 D E F40  
 4. 備考 鳴門おつる



1. 名称 はんでん  
 2. 材質 布  
 3. 寸法 ① A24 B10 C31 D23 E F53  
 ② A38 B30 C27 D28 E8 F54  
 4. 備考 ① 駕籠かき ② 女中さん用



1. 名称 はかま 3枚  
 2. 材質 布  
 3. 寸法 丈 ① 41 ③ 32 幅 ① 60 ③ 62  
 ② 40 ② 27  
 4. 備考 ① 紫 ② 黒 ③ 赤茶柄



1. 名称 はおり  
 2. 材質 布  
 3. 寸法 A 34 B 27 C 28  
 D E F 51  
 4. 備考 子役の羽織



1. 名称 はかま  
 2. 材質 布  
 3. 寸法 丈 49  
 巾 55  
 4. 備考



1. 名称 はかま  
 2. 材質 布  
 3. 寸法 丈 52  
 幅 30  
 4. 備考 三番度





1. 名称 かみしも
2. 材質 布
3. 寸法 ① 54 寸 27 幅  
② 33 寸 38 幅
4. 備考 上杉謙信等



1. 名称 はかま
2. 材質 布
3. 寸法 丈 44 寸 23 幅
4. 備考



1. 名称 はかま
2. 材質 布
3. 寸法 丈 49 寸 幅 27 寸 ヒモ 71
4. 備考



1. 名称 帯 (2本)
2. 材質 布
3. 寸法 ① 高15 寸 幅21 寸  
② 高13 寸 幅32 寸
4. 備考

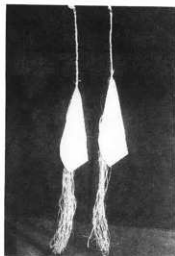


1. 名称 はかま 上衣
2. 材質 布
3. 寸法 ② A 65 B 24 C 29 寸  
D 28 E 27 F 59 寸
4. 備考 松王丸



1. 名称 帯
2. 材質 布
3. 寸法
4. 備考

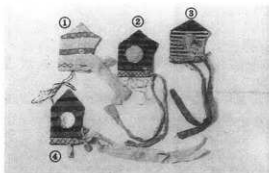
四小道具



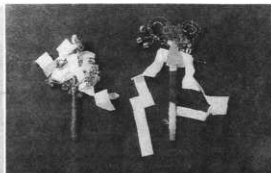
1. 名称 注連  
2. 材質 麻と紙  
3. 寸法 長 100  
4. 備考 祝事、左右に下げる



1. 名称 柏子木  
2. 材質 木  
3. 寸法 長 17  
厚 2.5  
4. 備考



1. 名称 鳥帽子  
2. 材質 紙  
3. 寸法 長 ① 16 ③ 18 幅 ① 14 ③ 15  
② 19 ④ 17 ② 11 ④ 14  
4. 備考



1. 名称 ねさ  
2. 材質 紙  
3. 寸法 長 ① 34 幅 14  
② 27 幅 13  
4. 備考



1. 名称 長柄の扇子  
2. 材質 紙  
3. 寸法 長 上7 幅 41.5  
下9 27  
4. 備考 三、九度



1. 名称 扇  
2. 材質 紙  
3. 寸法 長 22  
幅 12  
4. 備考 三番叟ワキの持つ扇



1. 名称 鉦
2. 材質 アルミ
3. 寸法 幅 38
4. 備考



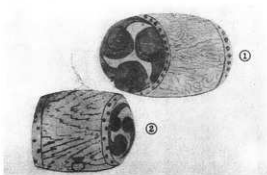
1. 名称 扇子
2. 材質 紙と竹
3. 寸法 高 10~25 cm
4. 備考 武家屋敷の場面



1. 名称 太鼓
2. 材質 木と皮
3. 寸法 高 23 幅 22
4. 備考



1. 名称 鉦
2. 材質 金属
3. 寸法 幅 9
4. 備考



1. 名称 太鼓
2. 材質 紙
3. 寸法 高 ① 23 幅 34.5  
② 20.5 幅 25.5
4. 備考 お祭り 陣太鼓等



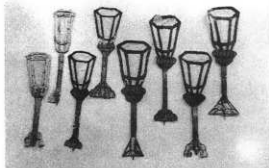
1. 名称 太鼓
2. 材質 皮
3. 寸法 高 27 幅 11
4. 備考 (横) 利南村沼須  
角田 興四平



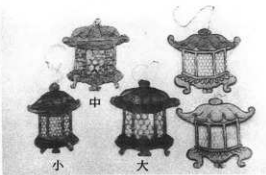
1. 名称 行燈 ①  
 2. 材質 紙と木  
 3. 寸法 大 415 幅 18 5枚あり  
           中 275 幅 12  
           小 26 幅 10.5 2枚あり  
 4. 備考 夜の場面



1. 名称 山門  
 2. 材質 紙  
 3. 寸法 高 75 幅 56  
 4. 備考 山門



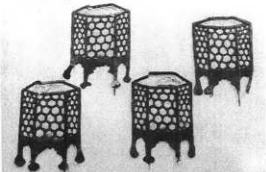
1. 名称 行燈 ②  
 2. 材質 紙  
 3. 寸法 高 20 幅 21.5  
           古いもの3枚 新しいもの2枚  
           由良之助 おかろが鏡で手紙をよ  
           む時使用  
 4. 備考



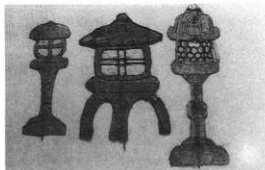
1. 名称 行燈 ③  
 2. 材質 紙  
 3. 寸法 大 40 幅 12  
           中 32.5 幅 10 各2枚あり  
           小 32 幅 9  
 4. 備考 夜の場面



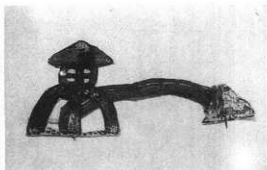
1. 名称 行燈  
 2. 材質 紙  
 3. 寸法 高 30 幅 16  
 4. 備考 夜の場面



1. 名称 行燈 ④  
 2. 材質 紙  
 3. 寸法 高 24 幅 16 4枚あり  
 4. 備考



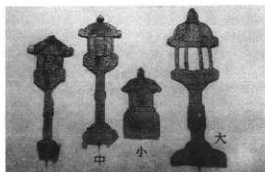
1. 名称 石灯籠 ①
2. 材質 紙
3. 寸法 左より 高 33.5 幅 12  
38.5 25  
48 17
4. 備考 神社仏閣の前



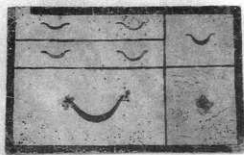
1. 名称 石灯籠と橋と岩
2. 材質 紙
3. 寸法 高 22.5 幅 49
4. 備考



1. 名称 釣鐘
2. 材質 紙
3. 寸法 高 28 幅 14
4. 備考 道成寺の鐘



1. 名称 石灯籠 ②
2. 材質 紙
3. 寸法 大 39 幅 14  
高 中 31 11  
小 17 9
4. 備考 神社仏閣の前



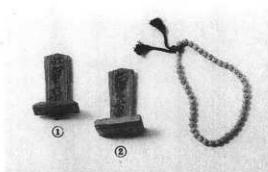
1. 名称 タンス
2. 材質 紙
3. 寸法 高 22 幅 35
4. 備考



1. 名称 衝立 (軍罰)
2. 材質 紙
3. 寸法 高 22.5 幅 30
4. 備考 (表) 衝立 (裏) たんす



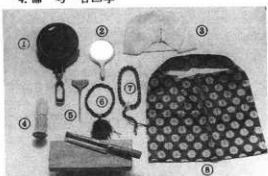
1. 名称 手鏡  
 2. 材質 手紙  
 3. 寸法 大 24 幅 17  
           中 20 幅 12  
           小 19 幅 11  
 4. 備考



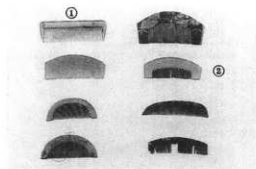
1. 名称 位牌と数珠  
 2. 材質 木  
 3. 寸法 ① 高 8 幅 3 数珠 23  
           ② 高 8.5 幅 3.5  
 4. 備考 廿四孝



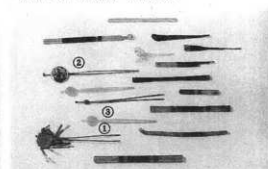
1. 名称 かんざし 00  
 2. 材質  
 3. 寸法 高 ① 13 幅 8  
           ② 14.5  
 4. 備考 姫様用



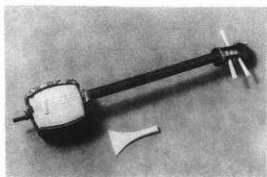
1. 名称 化粧道具 料理道具  
 2. 材質  
 3. 寸法 高 ① 23.5 ② 12 ③ 14 ④ 10  
           ⑤ 12 ⑥ 22 ⑦ 17 ⑧ 24  
           幅 ① 11 ② 7.5 ③ 19 ④ 3  
           ⑤ 4 ⑥ 29  
 4. 備考 野崎村 お光使用



1. 名称 笄櫛  
 2. 材質  
 3. 寸法 高 ① 3.6 幅 11  
           ② 4 幅 9.5  
 4. 備考 遊女が使用



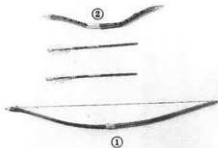
1. 名称 かんざし 00  
 2. 材質  
 3. 寸法 高 ① 14 幅 2  
           ② 19 幅 3.5  
           ③ 17 幅 1.5  
 4. 備考



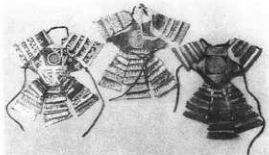
1. 名称 三味線と撥
2. 材質 木
3. 寸法 長 ① 38 幅 8 厚 4  
② 7.5 5
4. 備考 袖萩



1. 名称 琴
2. 材質 木
3. 寸法 高 14 幅 53  
厚 1
4. 備考 朝顔日記 深雪



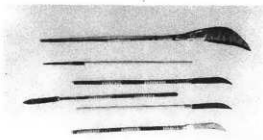
1. 名称 弓矢
2. 材質 木
3. 寸法 弓高 ① 50 矢高 22  
② 30
4. 備考 宗任が使う



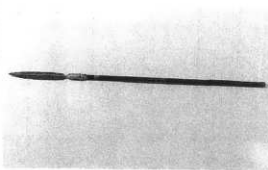
1. 名称 鎧 (三領)
2. 材質 紙
3. 寸法 高 40 幅 33
4. 備考 侍の出る場面、全部



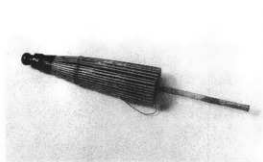
1. 名称 太刀
2. 材質 金属と木
3. 寸法 40~50cm
4. 備考 木 (17振) 金 (10振)



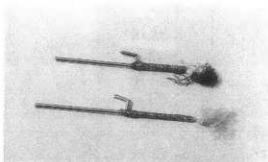
1. 名称 薙刀
2. 材質 アルミと木
3. 寸法 長 45 35
4. 備考 戦の場面



1. 名称 槍
2. 材質 アルミと木
3. 寸法 長 56
4. 備考 戦の場面



1. 名称 傘
2. 材質
3. 寸法 高 46 幅 5
4. 備考 雨降りの場



1. 名称 十手 (2丁)
2. 材質 金属
3. 寸法 長 21
4. 備考



1. 名称 蓑
2. 材質 ワラ
3. 寸法 丈 32 幅 24
4. 備考 武智光秀使用

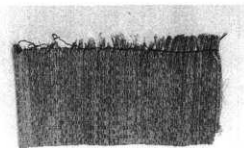


1. 名称 かっぱ
2. 材質 布
3. 寸法 丈 28 幅 45
4. 備考 雨降り





1. 名称 腰袋
2. 材質 ワラ
3. 寸法 左上 10 幅 66  
      文 右 17  
      下 14 幅 23
4. 備考 船道が使用



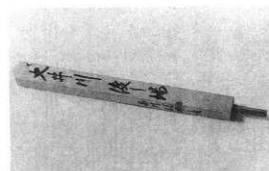
1. 名称 蓑座
2. 材質 藁草
3. 寸法 文 26 幅 43
4. 備考 道行の場面



1. 名称 屋形船
2. 材質 紙
3. 寸法 高 36 幅 75
4. 備考



1. 名称 駕籠
2. 材質 紙
3. 寸法 高 40 幅 50
4. 備考



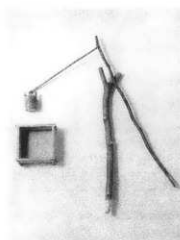
1. 名称 標抗
2. 材質 木
3. 寸法 高 46 幅 33 厚 25
4. 備考



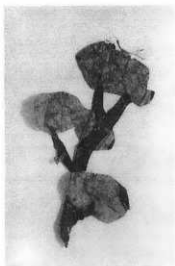
1. 名称 笹舟
2. 材質 紙
3. 寸法 高 22 幅 60
4. 備考 舟長の船



1. 名称 松
2. 材質 紙
3. 寸法 高 47  
幅 26.5
4. 備考 土手等で使用



1. 名称 つるべ井戸
2. 材質 木
3. 寸法 高 48 幅 55
4. 備考 鉄山皿屋敷  
古井戸



1. 名称 桜の木
2. 材質 紙
3. 寸法 高 47  
幅 30
4. 備考



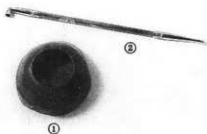
1. 名称 松
2. 材質 紙
3. 寸法 高 ① 48 ② 48 ③ 55 ④ 56  
幅 ① 28 ② 26 ③ 24 ④ 31
4. 備考 土手等で使用



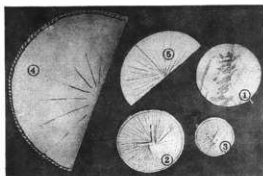
1. 名称 額
2. 材質 紙
3. 寸法 高 66 幅 113
4. 備考



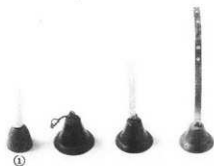
1. 名称 煙草盆
2. 材質 木
3. 寸法 高 14 幅 19
4. 備考 煙草を吸う場面



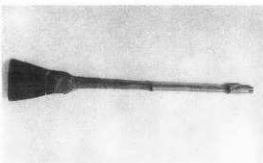
1. 名称 煙草盆と煙管
2. 材質 木と金属
3. 寸法 長 ① 6 幅 11  
② 30
4. 備考



1. 名称 笠 (5点)
2. 材質 ワラ
3. 寸法 幅 ① 18 ② 20 ③ 12  
④ 45.5 ⑤ 25
4. 備考



1. 名称 錫 (スズ)
2. 材質
3. 寸法 ① 15 幅 5.5  
高 ② 21 幅 5.5  
③ 21 幅 3
4. 備考 贈礼の場面 他



1. 名称 蓆 (ほうき)
2. 材質 蓆草と竹
3. 寸法 長 85 幅 15
4. 備考



1. 名称 笠
2. 材質 紙
3. 寸法 幅 23
4. 備考 雨の時の情景用



1. 名称 水盤
2. 材質 紙
3. 寸法 高 21.5 幅 29
4. 備考 神社の入口などに置く



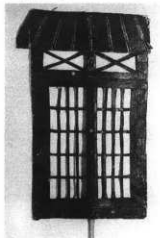
1. 名称 烏帽子
2. 材質 皮
3. 寸法 高 25 幅 13
4. 備考



1. 名称 農家
2. 材質 紙
3. 寸法 高 21.5 幅 35
4. 備考



1. 名称 掛軸
2. 材質 紙
3. 寸法 高 左 61 右 38 幅 左 60 右 32
4. 備考 廿四季武田勝頼の絵姿



1. 名称 木戸
2. 材質 紙
3. 寸法 高 71 幅 43
4. 備考



1. 名称 木戸
2. 材質 紙
3. 寸法 高 43 幅 32
4. 備考



1. 名称 正札
2. 材質 木
3. 寸法 高 34 幅 12
4. 備考 熊谷陣屋



1. 名称 庚申塔
2. 材質 紙
3. 寸法 高 32.5 幅 20
4. 備考 路傍の石仏



1. 名称 地藏菩薩
2. 材質 紙
3. 寸法 高 33 幅 20.5
4. 備考



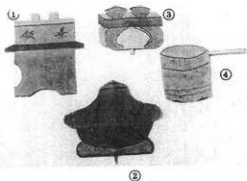
1. 名称 名号塔
2. 材質 紙
3. 寸法 高 28.5 幅 22
4. 備考 路傍の石仏



1. 名称 幽霊
2. 材質 紙
3. 寸法 高 40 幅 12.5
4. 備考 お菊の幽霊

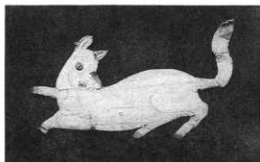


1. 名称 俊寛
2. 材質 紙
3. 寸法 高 27 幅 15
4. 備考



1. 名称 飯炊の道具
2. 材質 紙
3. 寸法
 

①	20	幅
②	11	
③	14	
④	17	
4. 備考 千代萩



1. 名称 白狐
2. 材質 紙
3. 寸法 高 20 幅 32.5
4. 備考



1. 名称 白狐(本物の剥製)
2. 材質
3. 寸法 高 26 幅 60
4. 備考 廿四季



1. 名称 動物
2. 材質 上ダンボール箱  
下紙
3. 寸法 高 上 16  
下 18  
幅 上 22.7  
下 30
4. 備考 スズメとチン



1. 名称 馬
2. 材質
3. 寸法 高 29 幅 49
4. 備考 茶番狂言用



1. 名称 龍
2. 材質 布と木
3. 寸法 丈 108
4. 備考 日高川



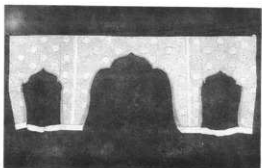
1. 名称 スズメ
2. 材質 紙
3. 寸法 高 5  
幅 12
4. 備考



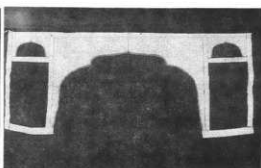
1. 名称 山門と高欄
2. 材質 紙
3. 寸法 高 145 幅 173.5
4. 備考 寺の正面



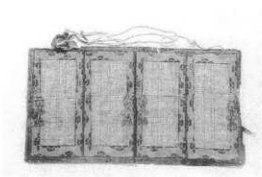
1. 名称 神社・寺の入口
2. 材質 紙
3. 寸法 鳥居 巾 63 高 72  
石垣 巾 170 高 34
4. 備考



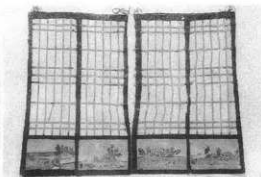
1. 名称 花頭窓
2. 材質 紙
3. 寸法 高 66 幅 172
4. 備考 寺の窓に使用



1. 名称 寺の一部
2. 材質 紙
3. 寸法 高 70 幅 170
4. 備考 寺の窓に使用



1. 名称 すだれ
2. 材質 紙
3. 寸法 高 35 幅 65
4. 備考 奥の間



1. 名称 格子障子
2. 材質 紙
3. 寸法 高 67 幅 64  
同様のもの 2枚あり
4. 備考

1. 名称 唐紙の横がけ
2. 材質 紙
3. 寸法 高 56  
幅 56.5
4. 備考 (表) 春秋  
(裏) 秋

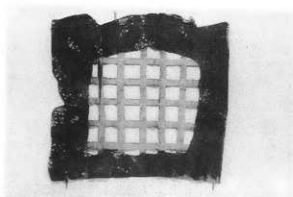


1. 名称 唐紙
2. 材質 紙
3. 寸法 高 62  
幅 83
4. 備考 (表) 鶴と波  
(裏) 松と山



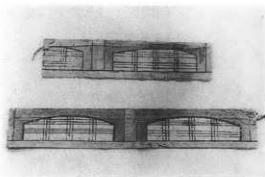
1. 名称 書院の窓
2. 材質 紙
3. 寸法 高 90 幅 35
4. 備考 (表) 書院の窓  
(裏) 塀

1. 名称 書院の窓
2. 材質 紙
3. 寸法 高 78 幅 35
4. 備考 (表) 書院の窓  
(裏) 塀

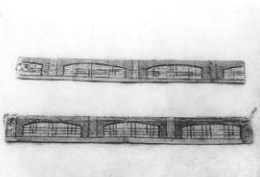


1. 名称 岩屋半の入口
2. 材質 紙
3. 寸法 高 47 幅 53
4. 備考





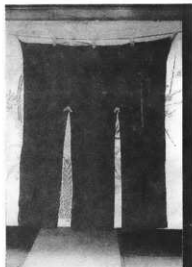
1. 名称 欄間
2. 材質 紙
3. 寸法 高 ① 14 幅 105  
② 14 173
4. 備考 前座敷に使用



1. 名称 欄間
2. 材質 紙
3. 寸法 高 9 幅 70
4. 備考 奥座敷使用  
(裏) 江戸  
奥田 数左衛門

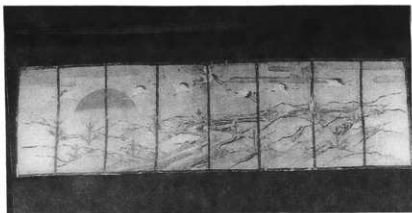


1. 名称 のれん (暖簾)
2. 材質 布
3. 寸法 高 112 幅 102
4. 備考 舞台のそでに使用  
左右一対  
人形遣いの出入口

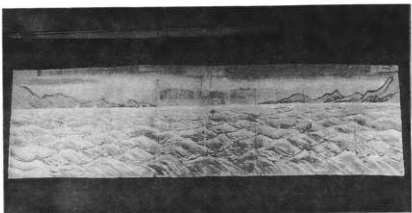


1. 名称 のれん (暖簾)
2. 材質 布
3. 寸法 高 135 幅 103  
ひもの長さ 170 cm
4. 備考 舞台のそでに使用  
左右一対  
人形遣いの出入口

六、掛紙



- |               |                  |
|---------------|------------------|
| 1. 演題 (表) 三番叟 | 3. 寸法 高 86 幅 304 |
| 2. 材質 紙       | 4. 備考            |



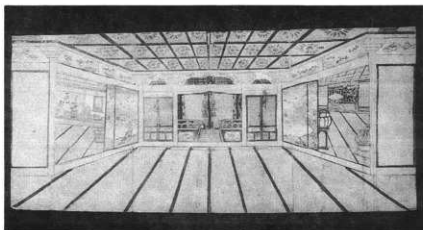
- |               |                  |
|---------------|------------------|
| 1. 演題 (裏) 青海波 | 3. 寸法 高 86 幅 304 |
| 2. 材質 紙       | 4. 備考            |



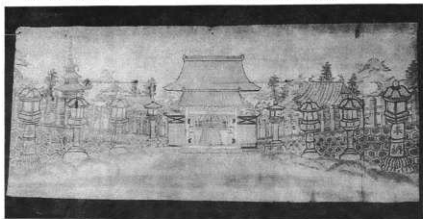
- |              |                  |
|--------------|------------------|
| 1. 演題 (表) 宿屋 | 3. 寸法 高 75 幅 180 |
| 2. 材質 紙      | 4. 備考 唐紙         |



- |               |                  |
|---------------|------------------|
| 1. 演題 (裏) 鶴と波 | 3. 寸法 高 75 幅 180 |
| 2. 材質 紙       | 4. 備考 唐紙         |



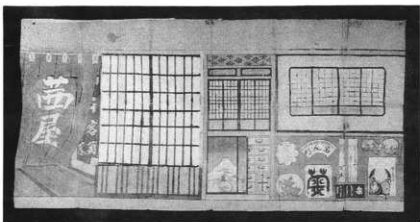
- |               |                    |
|---------------|--------------------|
| 1. 演題 安達ヶ原三段目 | 3. 寸法 高 98.5 幅 222 |
| 2. 材質 紙       | 4. 備考 奥御殿          |



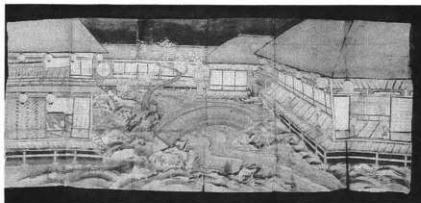
- |           |                   |
|-----------|-------------------|
| 1. 演題 日高川 | 3. 寸法 高 105 幅 240 |
| 2. 材質 紙   | 4. 備考 道成寺、城の寺     |



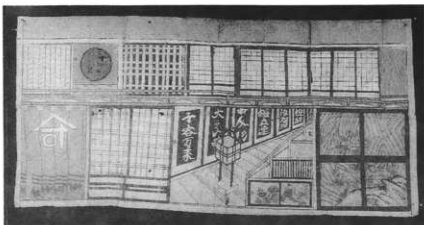
- |           |                  |
|-----------|------------------|
| 1. 演題 葛の葉 | 3. 寸法 高 84 幅 172 |
| 2. 材質 紙   | 4. 備考 葛の葉        |



- |           |                  |
|-----------|------------------|
| 1. 演題 葛の葉 | 3. 寸法 高 84 幅 172 |
| 2. 材質 紙   | 4. 備考 酒屋         |



- |                 |                   |
|-----------------|-------------------|
| 1. 演題 義経千本桜 廿四孝 | 3. 寸法 高 83 幅 23.2 |
| 2. 材質 紙         | 4. 備考 奥庭          |

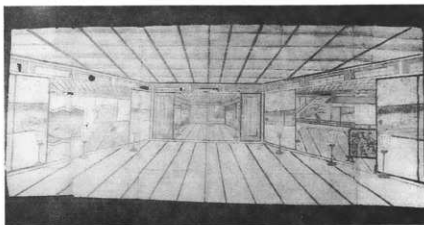


1. 演題 宿屋

2. 材質 紙

3. 寸法 高 81 幅 168

4. 備考

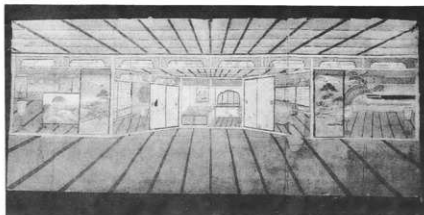


1. 演題

2. 材質 紙

3. 寸法 高 96 幅 233

4. 備考 奥御殿



1. 演題

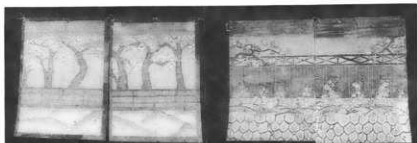
2. 材質 紙

3. 寸法 高 97.5 幅 230

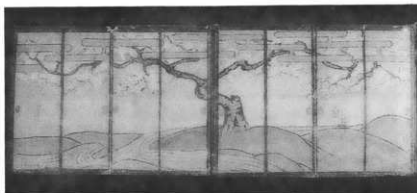
4. 備考 御殿物の一式



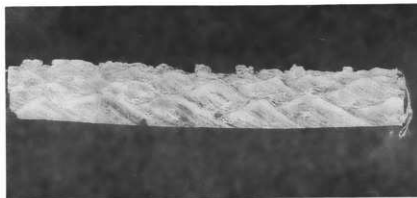
1. 演題 紙
2. 材質 高 95
3. 寸法 幅 234.5
4. 備考 中庭に関係したもの



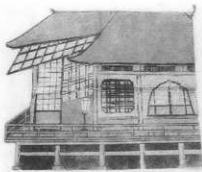
1. 演題 紙
2. 材質 高 104
3. 寸法 幅 77
4. 備考 舞台の前の袖



1. 演題 紙
2. 材質 高 65
3. 寸法 幅 87.5
4. 備考 大広間の唐紙



1. 演題 日高川、野崎村
2. 材質 紙
3. 寸法 高 27.5
4. 備考 幅 171
4. 備考 前方に下げる波



1. 演題 紙
2. 材質 紙
3. 寸法 高 64 幅 77
4. 備考 舞台の袖



1. 演題 紙
2. 材質 紙
3. 寸法 高 64 幅 32.5
4. 備考 掛紙の寸法不足の時使用



1. 演題 紙
2. 材質 紙
3. 寸法 高 ① 24 幅 276  
② 22.5 314  
③ 25.5 336
4. 備考 畳と天井 現在はほとんど畳

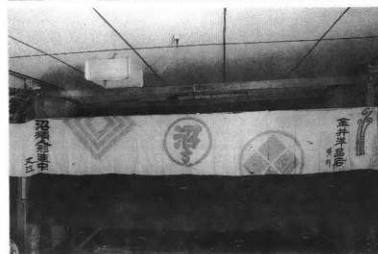
## 七、幕



1. 名称 引幕
2. 材質 布
3. 寸法 高 145  
幅 365
4. 備考 のし幕



1. 名称 引幕
2. 材質 布
3. 寸法 高 167  
幅 517
4. 備考 のし幕



1. 名称 機幕
2. 材質 布
3. 寸法 高 62.5  
幅 440
4. 備考 舞台の上部  
に飾りとして使用



綺 羅 (衣 類)

品 名	性 別	色 柄	用 途	A	B	C	D	E	F
				着丈	袖丈	肩巾	ユキ	エリ寸	身巾 cm
着 物	男	グレー市松柄		大 61 小 44	21	30	28	24	68
"	女	オレンジ地にもみじ松花 ガラ		62	42	26.5	27	23	58
"	男	グレー地に花もよう 衿 黒 スソ、ソデ口ブルー		61	30	27	30	29	63
"	女	青地に白格子柄 スソ、 ソデ口に赤地		64	30	28	27	23	64
"	女	ピンク地に桜の花ガラ ソデ、スソに赤地		62	30	29	22	22.5	57
"	女	白地に花柄 スソ、ソデ に赤地		62	30	30	28	27	66
"	女	ピンク地に御所車柄 ス ソ、ソデに赤地		61	42	29	27	23	66
"	女	小豆色 スソ、ソデ口若 草色 衿黒地		60	30	30	27	24	56
"	男・女	紺地に絞り柄 ソデにピ ンク地	子 役	34	22	24.5	24	7	60
"	女	グレー鉄こん柄 スソに ブルー地		69	24	28	27	19	67
" (2枚)	女	紫地にスソ模よう ソデ スソに黒地	子 役	51	24	28	24	20	62
"	女	若草色 もみじと花ガラ	子 役	57	57.5	24	22	14	47
"	男	黒紋付	子 役	51.5	21	23	22.5	25	45
"	男	黒地のカスリ	子 役	40.5	11.5	15	22	13	37
" (2枚)	男	紺地にもみじと花ガラ スソソデにもすグリーン	若 侍	55	28	26	25	27	60
"	女	青地に亀甲もよう		66	32	27	24	26	50
"	男	タテ織のタンゼン スソ ソデに赤地		59	26	24	27.5	23	53
"	女	ピンク地に花ガラ スソ ソデに赤地 メリンス他		58	28	23	25	18	60
"	女	ピンク地に花ガラ スソ ソデ口にピンク地		64	29	23	25	18	70
"	女	赤地に花模様 木綿他		61	31	28	26	23	60
"	女	ピンク地に花もよう ス ソソデに赤地 メリンス地		63	36	20	24	28	68
"	女	ピンク地に花もよう ス ソソデに赤地 チリメン地		63	44	33	28	25	50
"		濃い黄緑に花もよう ソ デエリに赤地 ハカマ地	三番鬼	39	23	30	29	6	57
"	男	黒地 スソ水色地		58	21	26	26	22	74
"	女	紫チリメン ミツ紋あり スソソデブルー地		64	31	27	27	29	66

品名	性別	色柄	用途	A 着丈	B 袖丈	C 肩巾	D ユキ	E エリ寸	F 身巾 cm
着物	男	黒チリメン	僧りよ の上衣	54	23.5	30	28	17	68
"	男	黒木綿 スソに横よう有		51	21	23	22	26	46
"	女	藤色 三ツ紋あり スソ ソデ若草色		70	31	25	25	23	60
"	女	金茶に松葉もよう スソ ソデ口若草色 ハカマ地		51	24	26	24	25	63
"	女	紺地に花柄 スソ・ソデ 口赤地 木綿地		63	31	24	24	21.5	62
"	女	うすいグレー 竹・鳥のガラ スソソデ口に赤地 チリメン地		61	30	28	28	26	74
打掛	女	黒地に黄色の花もよう スソ・ソデ口に赤		65	32	33	28	16	74
"	女	黒地に藤の花もよう スソ・ソデ口に赤		62	33	25	26	22	80
"	女	赤地に花もよう スソ・ ソデ口にモスグリーン帯地		62	35	24	25	21	77
"	女	白地に小紋ガラ スソ・ ソデ口に赤地		64	30	28	23	20	54
"	女	ピンク地に花柄 スソ・ ソデ口に赤地		61	28	27	28	20	67
"	女	黒地に亀甲電もよう ス ソ・ソデ口に赤地		61	36	35	29	22	61
着物(2枚)	女	グレー地に丸ガラもよう スソ・ソデ口に赤地	老女用	47	30	28	25	23	65
着物	男	黄色と茶のたて縞 スソ ソデ口に黄色		61	22	25	25	24	59
"	兼用	黒地に網柄		65	32	22	25	26	70
羽織	男	濃い紫地		41	22	21	25.5	/	37
白無拓	女	花ガラ リンズ地		65	31	26	25	23	60
"	女	菊模よう "		60	38	30	27	31	70
"	女	地柄アリ		61	33	28	29	25	68
"	女	白地		61	34	30	27	19	68
着物	女	小豆地模よう 三ツ紋あり スソソデ口にピンク地	おあさ 用	62	32	31	29	25	80
"	女	紫地に四角もよう スソ ソデ口藤色 チリメン地	おその 用	62	33	31	30	25	70
"	女	赤地に地もよう リンズ地	忠義の 人用	63	34	31	28	29	68
ハカマ	男	紫地に金・銀ガラ	若待用	49	巾 27	ひも丈 35			
"	男	金地に金地模	"	45	27	37			

腰巻 17枚 帯 娘用 12本 子供用 3本 中年用 11本 男用 10本 下帯 32本 帯止メ 14本  
腰ひも 18本 たすき 4本 ひも 68本 白頭巾 2本 ずた袋 1コ 有り

沼田市沼須人形芝居

平成五年三月 発行

編集 群馬県教育委員会文化財保護課

発行 群馬県教育委員会

〒371 前橋市大手町二丁目一一

Ⅸ 〇二七二四二一一(代表)

印刷 勝光印刷

高崎市旭町五番地

Ⅸ 〇二七三 〇四 一八六一